農業経営指標分析プログラム
入力説明書

平成 25 年3月

農林水産省経営局

目次

１　はじめに
　1.1　新たな農業経営指標とは　・・・・・1

２　指標に取り組むための準備
　2.1　お手元に用意するもの　・・・・・2
　2.2　農林水産省「新たな農業経営指標」のホームページへアクセス　・・・・・3
　2.3　「農業経営指標分析プログラム」のインストール　・・・・・4
　2.4　「農業経営指標分析プログラム」を開く　・・・・・5

３　基本情報の入力
　3.1　基本情報の入力①　・・・・・6
　3.2　基本情報の入力②　・・・・・7
　3.3　基本情報の入力③　・・・・・8

４　経営改善のためのチェックリストの入力
　4.1　取組状況の選択　・・・・・9
　4.2　改善の優先度の選択　・・・・・14

５　経営データの記入フォームの入力
　5.1　労働力のデータ入力　・・・・・15
　5.2　農地のデータ入力　・・・・・17
　5.3　生産・販売のデータ入力　・・・・・19
　5.4　財務のデータ入力（青色申告をしている場合）　・・・・・22
　5.5　財務のデータ入力（青色申告をしていない場合）　・・・・・30

６　評価結果シートの出力
　6.1　現状と目標　・・・・・33
　6.2　技術指標　・・・・・34
　6.3　財務指標　・・・・・35
　6.4　取組指標　・・・・・36
　6.5　経営計画の見直し　・・・・・36
　6.6　自己チェック結果の市町村への提出（認定農業者のみ）　・・・・・37

1　はじめに

1.1　新たな農業経営指標とは

農林水産省では、農業経営者の皆さんが自らの経営改善のために活用できる「新たな農業経営指標」を策定しました。

この指標は、多くの農業経営者の皆さんが簡単に取り組めるよう、様々な工夫をしています。簡単な仕組みである一方、先進的な農業者や税理士など専門家の意見も取り入れ、経営の自己点検や改善を行い、所得の向上を図れるものとなっています。

この指標を活用して、経営改善に必要な取組の自己チェックや経営データの確認を行い、経営のレベルアップを図りましょう。

認定農業者の皆さんへ

認定農業者の方は、農業経営改善計画に沿って経営改善を着実に進めるため、毎年定期的に農業経営指標に基づく自己チェックを行ってください。

自己チェックの結果は大切に保管し、認定期間の３年目及び５年目に市町村へ提出してください。（詳しくは P37 をご覧ください。）

2　指標に取り組むための準備

2.1　お手元に用意するもの

新たな農業経営指標に取り組むにあたってお手元にご用意いただくものは、以下のとおりです。

① パソコン

指標に取り組むにあたって、最初に「農業経営指標分析プログラム」をインストールするため、インターネットに接続する必要があります。また、パソコンには Microsoft Excel がインストールされている必要があります。上記の環境にない方は、お近くの農政局・地域センター、市町村、農業改良普及センター等にご相談ください。

② 経営内容の目標及び計画が分かる資料

認定農業者におかれましては、農業経営改善計画認定申請書をご用意ください。

③ 決算書等

青色申告決算書（農業所得用）等をご用意ください。農産加工等に取り組んでいる場合は、青色申告決算書（一般用）等もご用意ください。

青色申告を行っていない場合は、伝票、帳簿、通帳等をご用意ください。

④ 作業日誌等

労働時間がわかるものをご用意ください。

⑤ 電卓、筆記用具

2.2　農林水産省「新たな農業経営指標」のホームページへアクセス

「新たな農業経営指標」についての情報をまとめた、農林水産省ホームページの「新たな農業経営指標」のページへアクセスします。

アクセスするには、以下の方法があります。

ⅰ）インターネットで『新たな農業経営指標』で検索

ⅱ）農林水産省ホームページから、「組織・政策」→「経営局」→「新たな農業経営指標」をクリック

ⅲ）URL：http://www.maff.go.jp/j/ninaite/shihyo.html　を直接入力

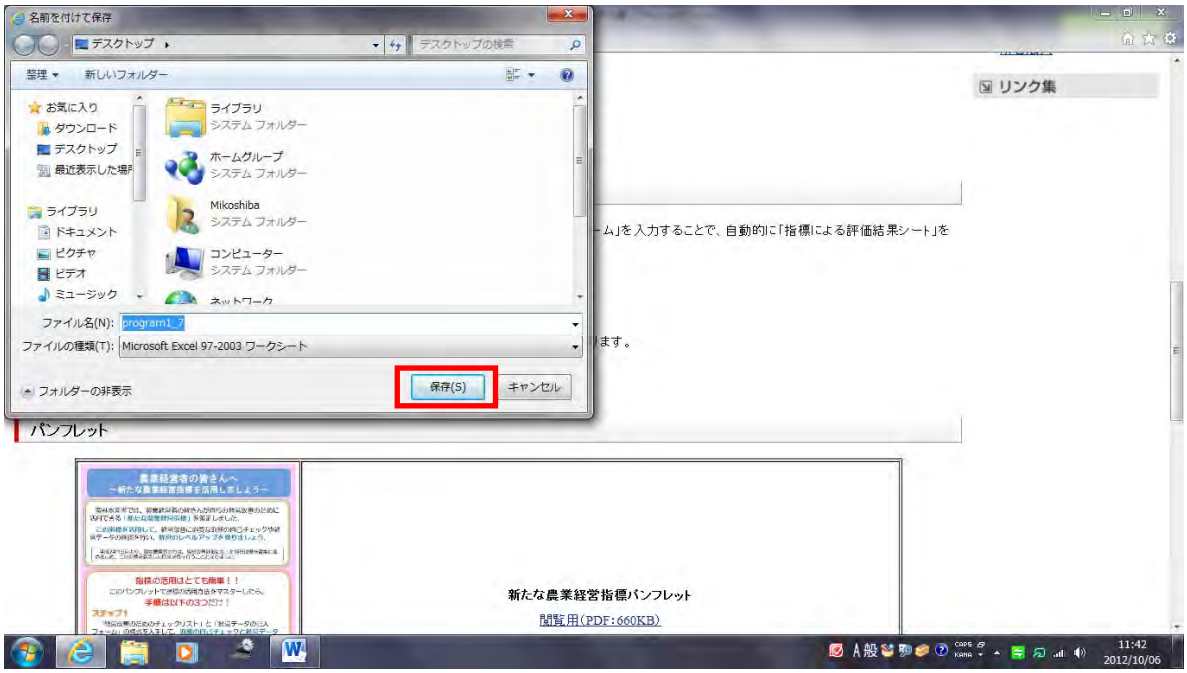
以下のページが開きます。

2.3　「農業経営指標分析プログラム」のインストール

利用者の方の経営をパソコンで分析するため、「農業経営指標分析プログラム」をインストールします。

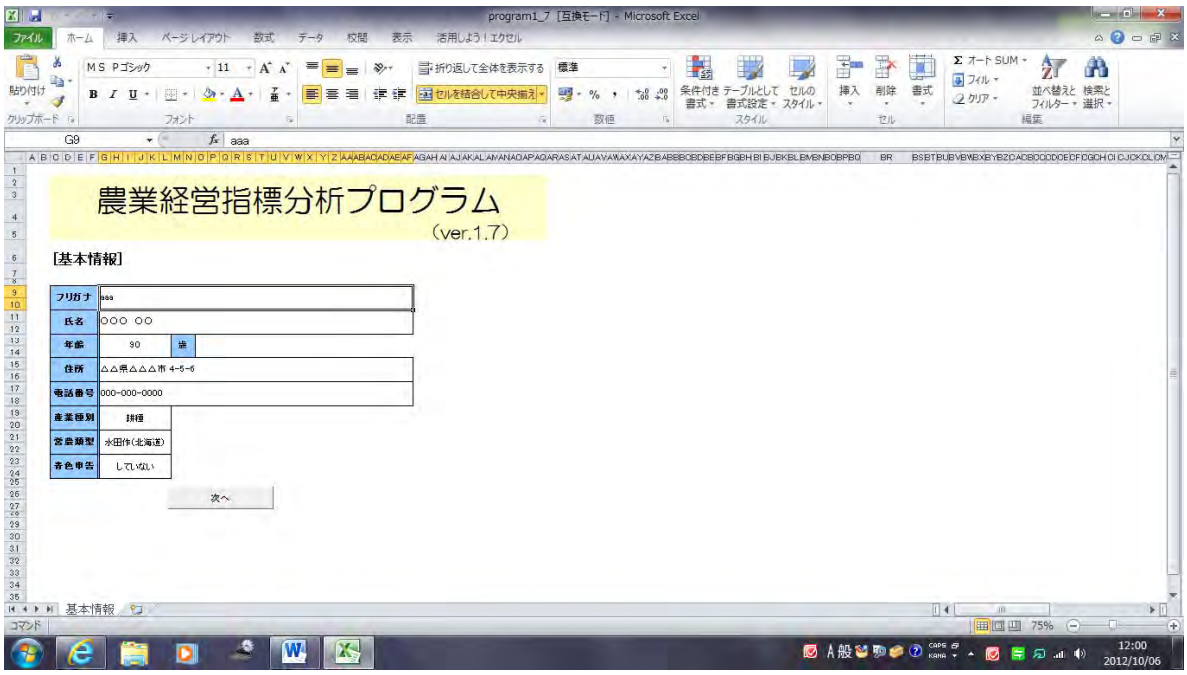
① ページ中ほどの『農業経営指標分析プログラム』を右クリックし、『対象をファイルに保存』を右クリックする。

② エクセルファイルをご自分のパソコンに保存してください。



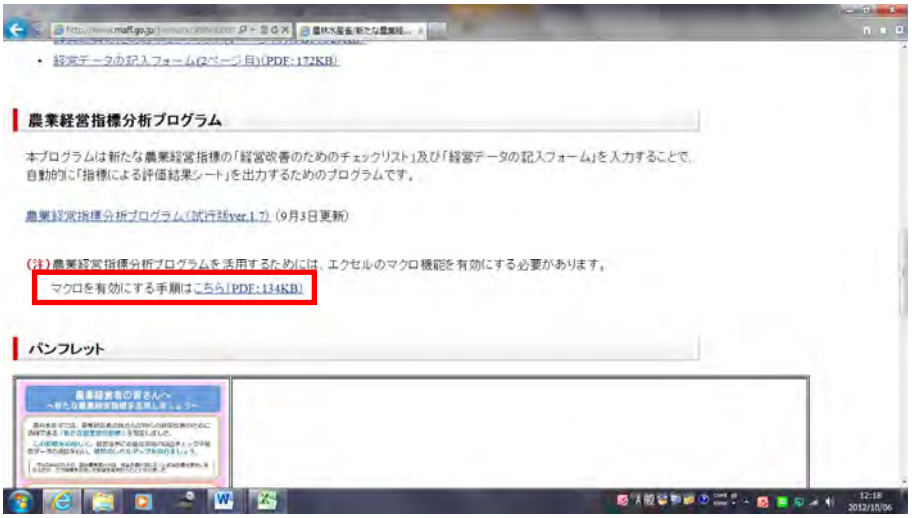
2.4　「農業経営指標分析プログラム」を開く

パソコンに保存した「農業経営指標分析プログラム」を開きます。
以下の画面が表示されます。



<u>マクロを有効にする</u>

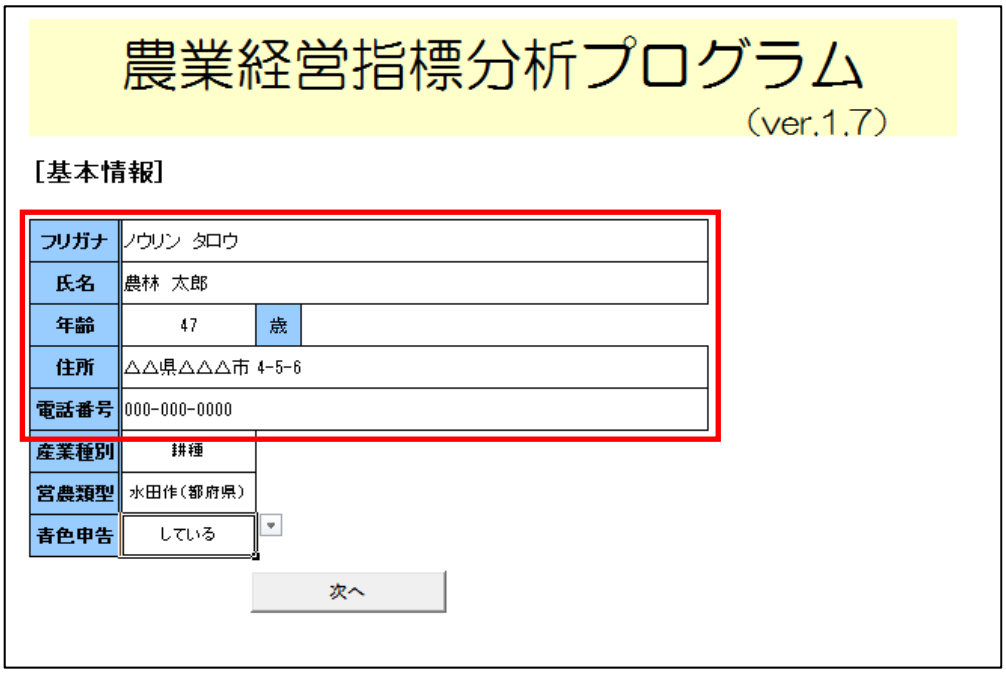
「農業経営指標分析プログラム」を活用するには、エクセルのマクロ機能を有効にする必要があります。マクロを有効にする手順は、以下のホームページを参照してください。



3　基本情報の入力

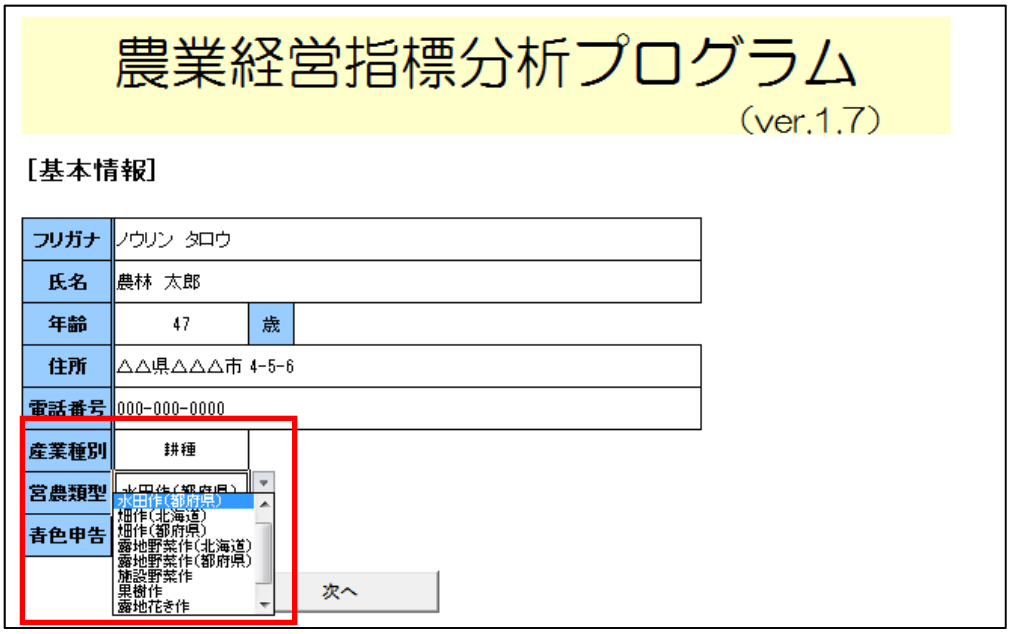
3.1　基本情報の入力①

氏名（フリガナ）、年齢、住所、電話番号を入力してください。



3.2　基本情報の入力②

産業種別、営農類型、青色申告の有無を選択してください。それぞれの枠をクリックすると選択できます。



①産業種別について

産業種別は『耕種』または『畜産』のいずれか該当するものを選んでください。耕種と畜産の複合経営の場合、販売金額が大きいものを選んでください。

②営農類型について

営農類型は以下のいずれか該当するものを選んでください。複合経営の場合、販売金額が最も大きい営農類型を選んでください。たとえば、稲、麦、雑穀、豆類、いも類、工芸農作物の販売金額のうち、水田で作付けした農業生産物販売金額が他の営農類型の農業生産物販売金額と比べて最も大きい経営である場合、「水田作」を選択してください。

耕種の場合：水田作（北海道）、水田作（都府県）、畑作（北海道）、畑作（都府県）、露地野菜作（北海道）、露地野菜作（都府県）、施設野菜作、果樹作、露地花き作、施設花き作

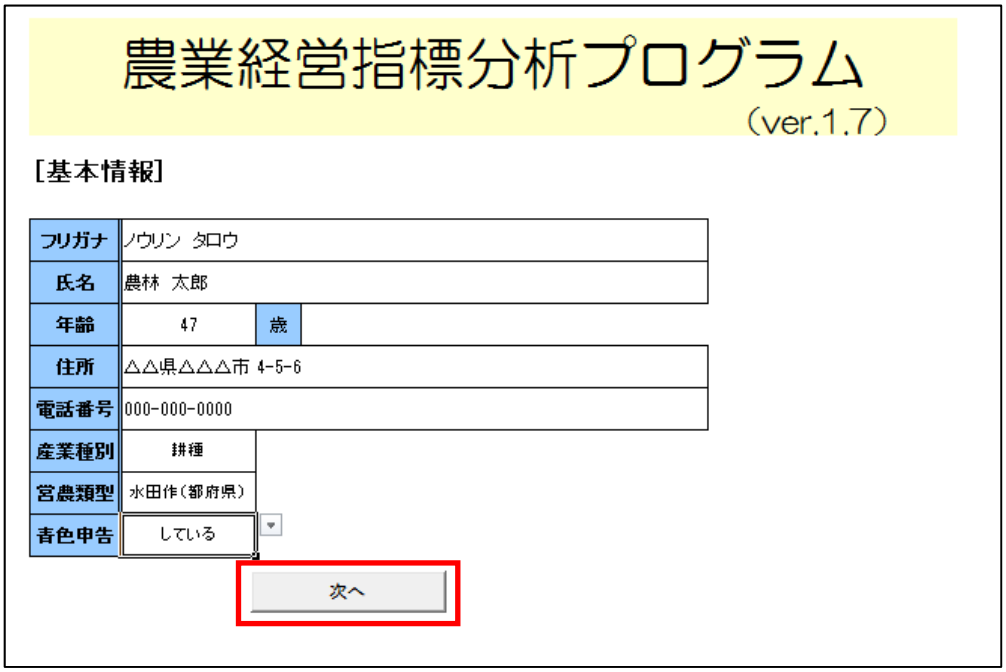
畜産の場合：酪農（北海道）、酪農（都府県）、繁殖牛、肥育牛、養豚、採卵鶏、ブロイラー養鶏

③青色申告について

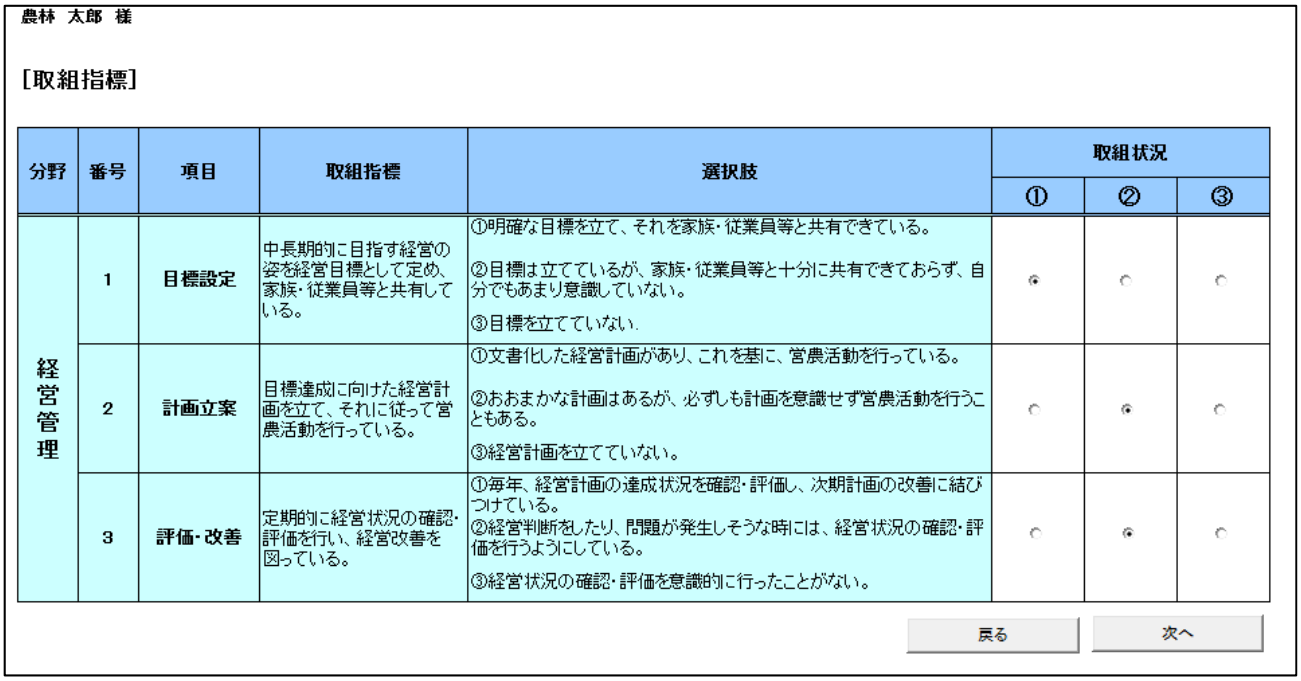
青色申告の有無によって『している』または『していない』を選んでください。

3.3　基本情報の入力③

基本情報の入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。



以下の画面が表示されます。



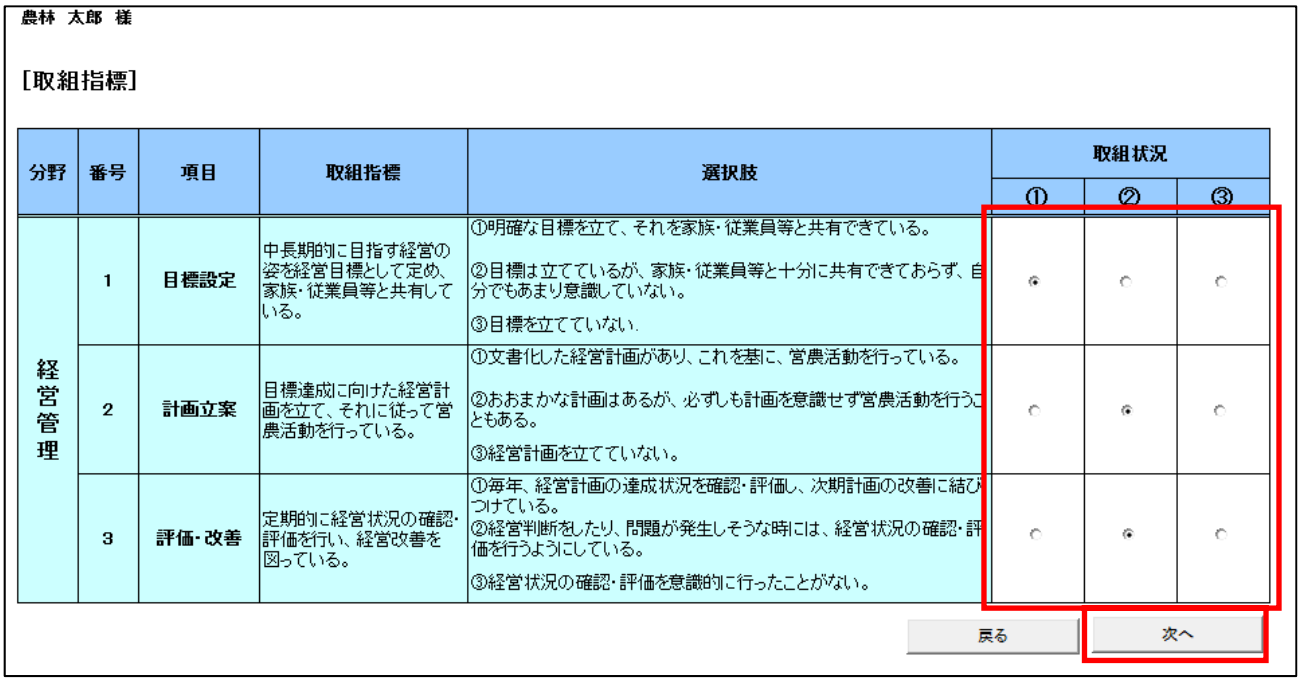
4　経営改善のためのチェックリストの入力

ここでは、農業経営の発展に欠かせない経営管理、生産、販売・加工、財務、労務等に関する１４の取組について、現在の取組状況を確認します。

4.1　取組状況の選択

「取組指標」の各項目について、選択肢①～③の中から、自らの経営における現在の取組状況に最も近いもの１つを「取組状況」の欄の①～③の中から選んで、クリックしてください。選んだ番号の枠に●が表示されます。

選択が終わったら、『次へ』をクリックしてください。なお、『戻る』をクリックすることで、前の画面に戻ることが可能です。（入力した内容は消えません。）


農林　太郎　様

［取組指標］

分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況 ①	②	③
経営管理	1	目標設定	中長期的に目指す経営の姿を経営目標として定め、家族・従業員等と共有している。	①明確な目標を立て、それを家族・従業員等と共有できている。 ②目標は立てているが、家族・従業員等と十分に共有できておらず、自分でもあまり意識していない。 ③目標を立てていない。	●	○	○
	2	計画立案	目標達成に向けた経営計画を立て、それに従って営農活動を行っている。	①文書化した経営計画があり、これを基に、営農活動を行っている。 ②おおまかな計画はあるが、必ずしも計画を意識せず営農活動を行うこともある。 ③経営計画を立てていない。	○	●	○
	3	評価・改善	定期的に経営状況の確認・評価を行い、経営改善を図っている。	①毎年、経営計画の達成状況を確認・評価し、次期計画の改善に結びつけている。 ②経営判断をしたり、問題が発生しそうな時には、経営状況の確認・評価を行うようにしている。 ③経営状況の確認・評価を意識的に行ったことがない。	○	●	○

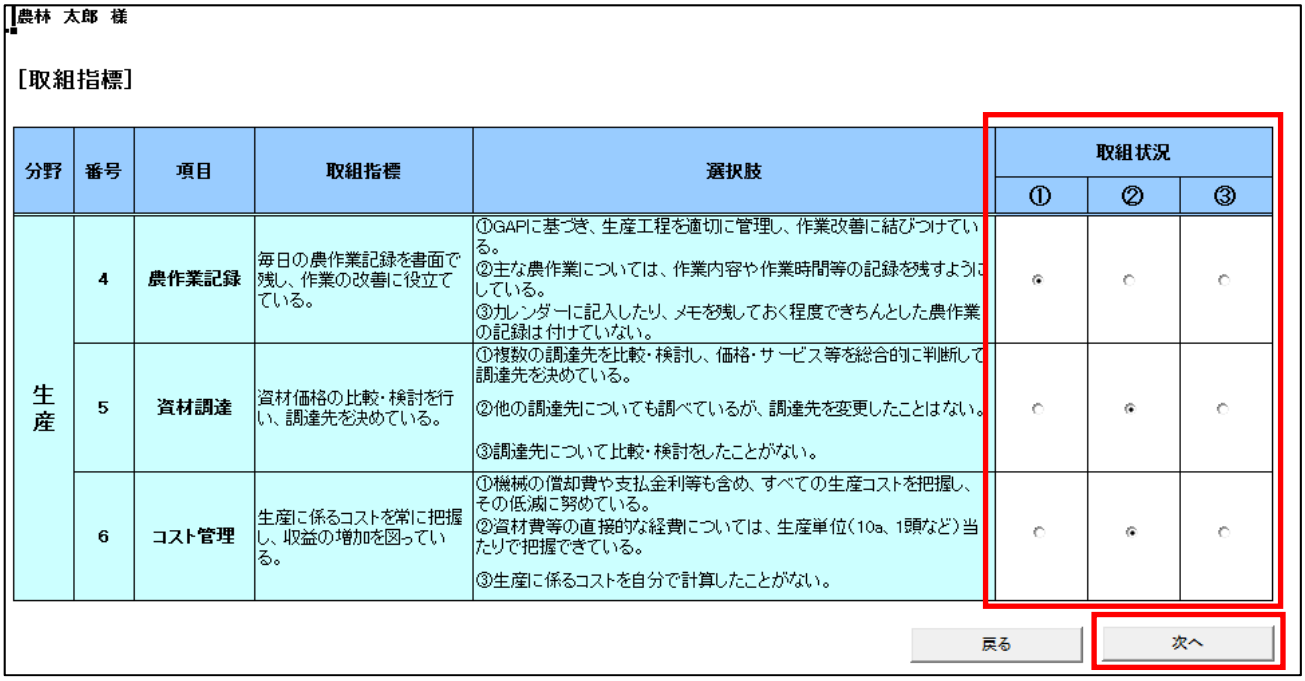
戻る　次へ

《参考》

取組指標	解説
目標設定	ここでの「経営目標」とは、経営理念やビジョンといったものよりも具体的なもので、５～１０年後に目指す事業内容や経営規模、作目構成等の将来的な経営の姿を示すものです。 認定農業者の方が作成する「経営改善計画」の内容は、この「経営目標」に該当すると考えられます。ただし、目標年次が間近に迫っている場合などは、新たな目標について検討を行うことが必要となります。 農業従事者が１人であり、「経営目標」を共有すべき家族・従業員等がいない場合には、「目標の共有」に関しては考慮する必要はありません。
計画立案	経営計画とは、今後の営農や販売活動などにどのように何に取り組んでいくのかを具体的な予定として示すものです。経営計画の立て方は、まずは１年間の営農計画を立てることが基本ですが、経営目標を立てている場合には、目標達成までどのように経営を発展させていくか、具体的な道筋を示した中期計画も作成することが望まれます。
評価・改善	計画は立てるだけでなく、定期的にその達成状況を確認・評価し、必要な改善に結びつけていくことが必要です。計画を立てていない場合には、定期的な評価を行うことができませんので、取組状況は②又は③になります。

「経営管理」に続いて、「生産」、「販売・加工」、「財務」、「労務、地域活動」の分野の取組指標が表示されます。それぞれ、取り組み状況を選択し、『次へ』をクリックしてください。

【生産】


農林 太郎 様

[取組指標]

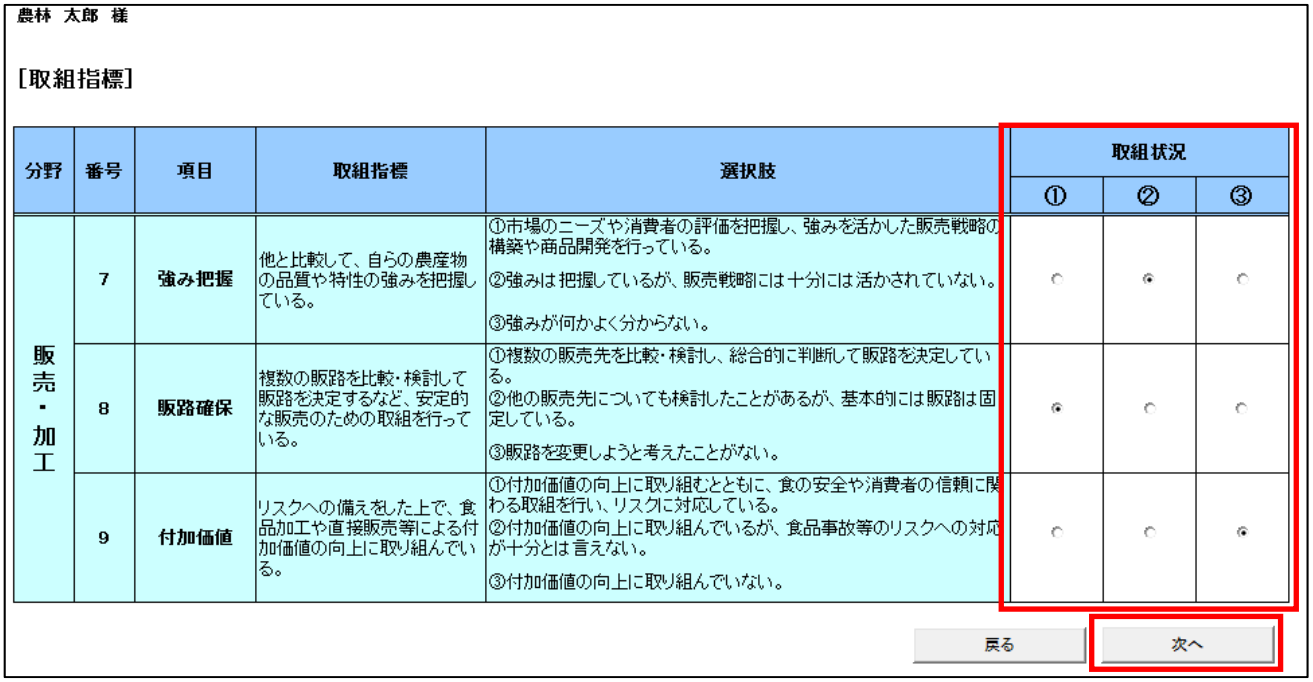
分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況 ①	②	③
生産	4	農作業記録	毎日の農作業記録を書面で残し、作業の改善に役立てている。	①GAPに基づき、生産工程を適切に管理し、作業改善に結びつけている。 ②主な農作業については、作業内容や作業時間等の記録を残すようにしている。 ③カレンダーに記入したり、メモを残しておく程度できちんとした農作業の記録は付けていない。	●	○	○
	5	資材調達	資材価格の比較・検討を行い、調達先を決めている。	①複数の調達先を比較・検討し、価格・サービス等を総合的に判断して調達先を決めている。 ②他の調達先についても調べているが、調達先を変更したことはない。 ③調達先について比較・検討をしたことがない。	○	●	○
	6	コスト管理	生産に係るコストを常に把握し、収益の増加を図っている。	①機械の償却費や支払金利等も含め、すべての生産コストを把握し、その低減に努めている。 ②資材費等の直接的な経費については、生産単位(10a、1頭など)当たりで把握できている。 ③生産に係るコストを自分で計算したことがない。	○	●	○

戻る　次へ

《参考》

取組指標	解説
農作業記録	自らの行動を後から振り返ったり、労働時間や労働コストをきちんと把握したりするためには、どのような農作業を行ったのかを毎日記録しておくことが重要です。 GAP（農業生産工程管理）やこれに類似の取組は、農業生産活動の各工程の実施状況を記録し、点検・評価を行うことで、日頃の農作業の改善につなげることができることから、作業記録の内容や作業時間等の記録だけでなく、GAP 等まで取り組むことが望まれます。
資材調達	資材に係るコストは、生産コストの大きな部分を占めています。複数の調達先を比較しながら、価格やサービス等を総合的に考えて、資材の調達先を決めることが重要です。
コスト管理	生産コストを正確に把握することは、収益の増加を図る上でとても重要です。資材費や雇人費、販売費のような直接的な経費だけでなく、農業用機械や施設の償却費、支払金利等も含めたすべての経費を正確に把握することが重要です。

【販売・加工】


農林　太郎　様

[取組指標]

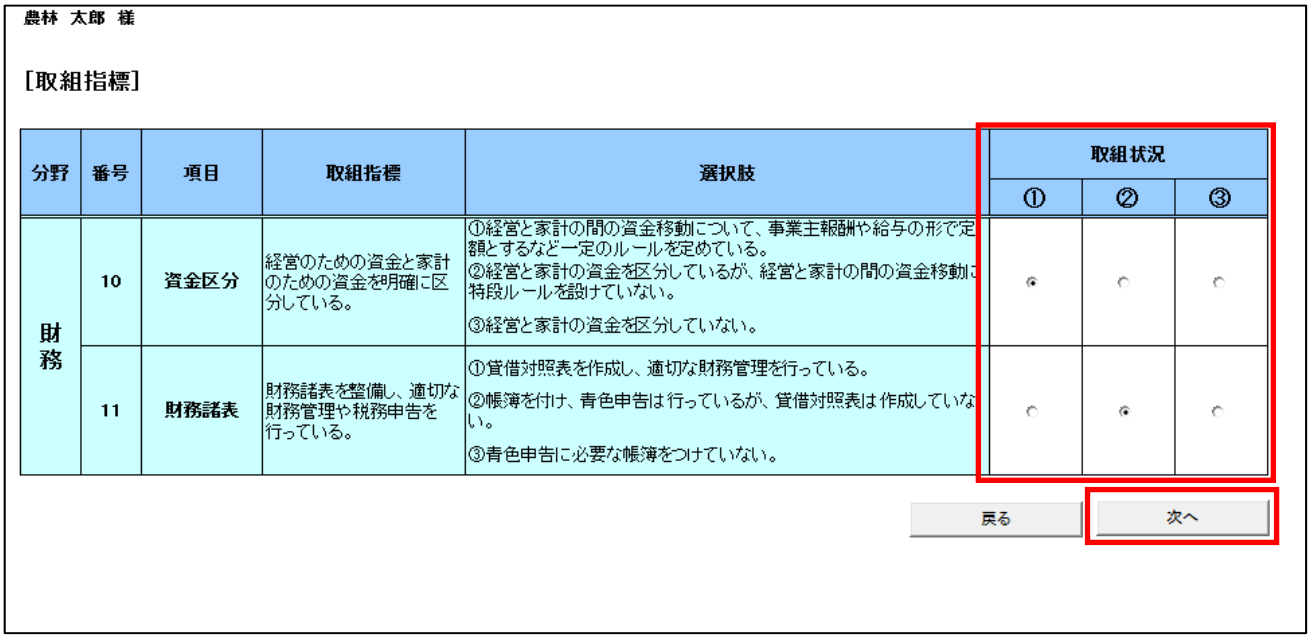
分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況 ①	②	③
販売・加工	7	強み把握	他と比較して、自らの農産物の品質や特性の強みを把握している。	①市場のニーズや消費者の評価を把握し、強みを活かした販売戦略の構築や商品開発を行っている。 ②強みは把握しているが、販売戦略には十分には活かされていない。 ③強みが何かよく分からない。	○	●	○
	8	販路確保	複数の販路を比較・検討して販路を決定するなど、安定的な販売のための取組を行っている。	①複数の販売先を比較・検討し、総合的に判断して販路を決定している。 ②他の販売先についても検討したことがあるが、基本的には販路は固定している。 ③販路を変更しようと考えたことがない。	●	○	○
	9	付加価値	リスクへの備えをした上で、食品加工や直接販売等による付加価値の向上に取り組んでいる。	①付加価値の向上に取り組むとともに、食の安全や消費者の信頼に関わる取組を行い、リスクに対応している。 ②付加価値の向上に取り組んでいるが、食品事故等のリスクへの対応が十分とは言えない。 ③付加価値の向上に取り組んでいない。	○	○	●

戻る　次へ

《参考》

取組指標	解説
強み把握	収益性を高める上で、自分の生産する農産物の「強み」が何かを認識し、それを「売り」にして販売戦略を考えたり、商品開発を行うことが重要です。「強み」とは、品質や美味しさ、栽培方法の工夫、生産情報の管理などの幅広い取組が含まれ得ると考えられます。
販路確保	生産した農産物を、より多くの収益を安定的に得られる取引先に販売することが、収益の増加につながります。古くからのつきあいというだけで取引先を選ぶのではなく、価格の設定方式や決済の期間、取引先の信用等を含めた取引全体を考えて、販売先を決めることが重要です。
付加価値	「付加価値」の向上に関する取組には、食品加工や消費者への直接販売、飲食サービス、農家民宿といった取組のほか、有機栽培や特別栽培等の生産方法に関する取組や消費者の求める生産情報の提供等に関する取組等も含まれ得ると考えられます。 また、「リスクへの備え」とは、具体的には、衛生管理や原産地等表示、トレーサビリティ等に係る必要な対応がきちんと行われていることを意味しています。

【財務】


農林　太郎　様

［取組指標］

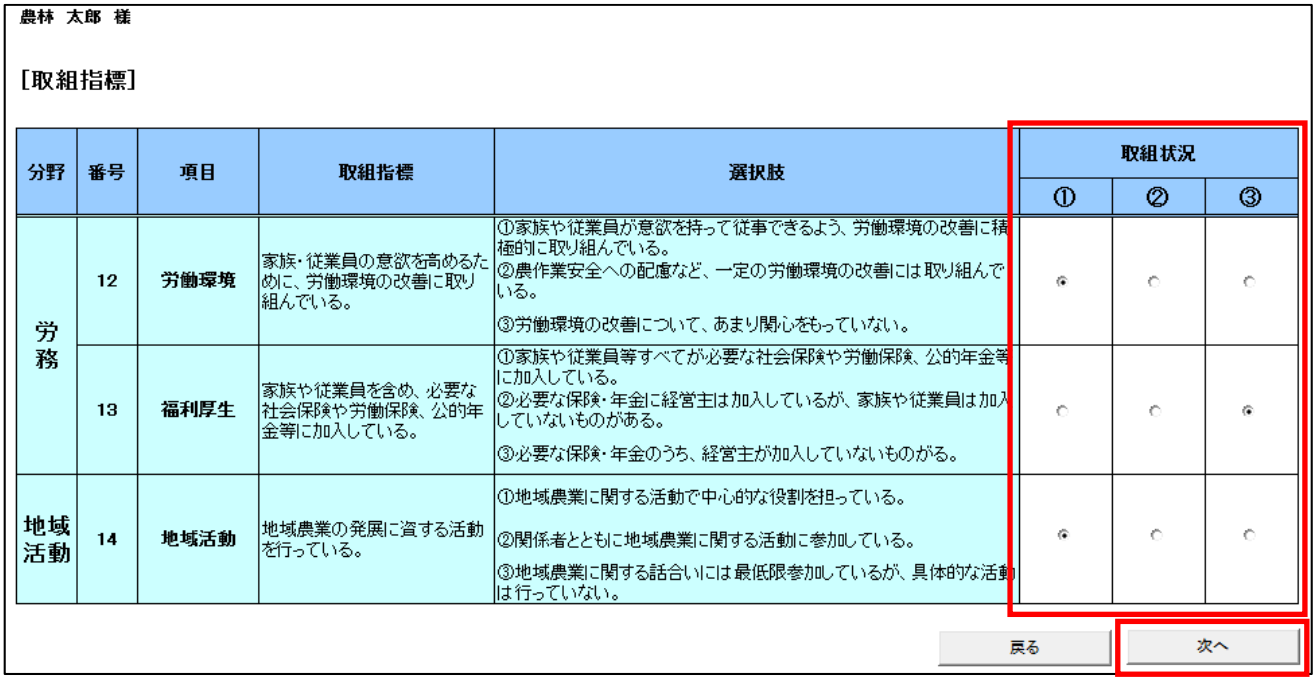
分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況 ①	②	③
財務	10	資金区分	経営のための資金と家計のための資金を明確に区分している。	①経営と家計の間の資金移動について、事業主報酬や給与の形で定額とするなど一定のルールを定めている。 ②経営と家計の資金を区分しているが、経営と家計の間の資金移動に特段ルールを設けていない。 ③経営と家計の資金を区分していない。	●	○	○
	11	財務諸表	財務諸表を整備し、適切な財務管理や税務申告を行っている。	①貸借対照表を作成し、適切な財務管理を行っている。 ②帳簿を付け、青色申告は行っているが、貸借対照表は作成していない。 ③青色申告に必要な帳簿をつけていない。	○	●	○

戻る　次へ

《参考》

取組指標	解説
資金区分	家族経営では、家計と経営のための資金をきちんと区分することが必要です。きちんと区分した上で、家計と経営の間の資金移動を、事業主報酬や給与等の形で明確にルールを決めておくことが重要です。
財務諸表	農家経営を行う上で、きちんと財務管理を行うことが必要です。損益計算書で毎年の収入と支出を正確に把握し、これに基づいて青色申告を行うとともに、貸借対照表を作成して、資産や負債の状況を常に把握しておくことが大切です。

【労務、地域活動】



農林 太郎 様

[取組指標]

分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況 ①	②	③
労務	12	労働環境	家族・従業員の意欲を高めるために、労働環境の改善に取り組んでいる。	①家族や従業員が意欲を持って従事できるよう、労働環境の改善に積極的に取り組んでいる。 ②農作業安全への配慮など、一定の労働環境の改善には取り組んでいる。 ③労働環境の改善について、あまり関心をもっていない。	●	○	○
	13	福利厚生	家族や従業員を含め、必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。	①家族や従業員等すべてが必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。 ②必要な保険・年金に経営主は加入しているが、家族や従業員は加入していないものがある。 ③必要な保険・年金のうち、経営主が加入していないものがる。	○	○	●
地域活動	14	地域活動	地域農業の発展に資する活動を行っている。	①地域農業に関する活動で中心的な役割を担っている。 ②関係者とともに地域農業に関する活動に参加している。 ③地域農業に関する話合いには最低限参加しているが、具体的な活動は行っていない。	●	○	○

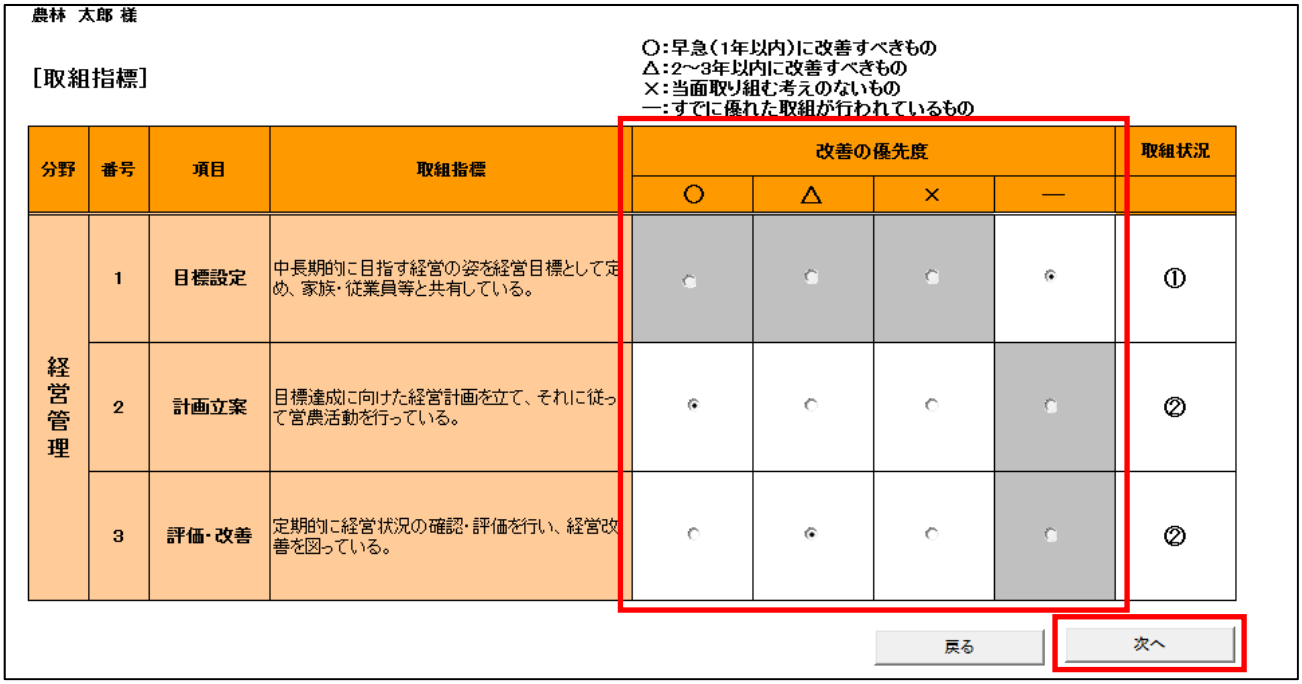
戻る　次へ

《参考》

取組指標	解説
労働環境	家族や従業員の皆さんの労働環境に配慮するということは、農業経営を発展させる上で欠かせない取組です。安全で働きやすく、勤労意欲が出るような労働環境が実現できているか確認してください。
福利厚生	「必要な社会保険や労働保険、公的年金」とは、健康保険、国民年金、厚生年金、労災保険、雇用保険、農業者年金を指します。これらの保険・年金に経営者だけでなく、家族や従業員等のすべての者が加入することが求められます。
地域活動	地域農業に関する活動には、地域での人や農地に関する問題の解決のための話合いや農地・水利施設等の保全に関する活動、地域ぐるみでの特産品の開発等が含まれます。

4.2　改善の優先度の選択

4.1 で取組状況を選択した取組指標の各項目について、「改善の優先度」の欄を選択します。取組状況が①のものは、既に優れた取組が行われているため「－」が自動で選択されます。取組状況が②または③のものには、優先度に応じて、〇（早急（１年以内）に改善すべきもの）、△（２～３年以内に改善すべきもの）、×（当面取り組む考えのないもの）のうち１つを選択し、『次へ』をクリックしてください。


農林　太郎 様

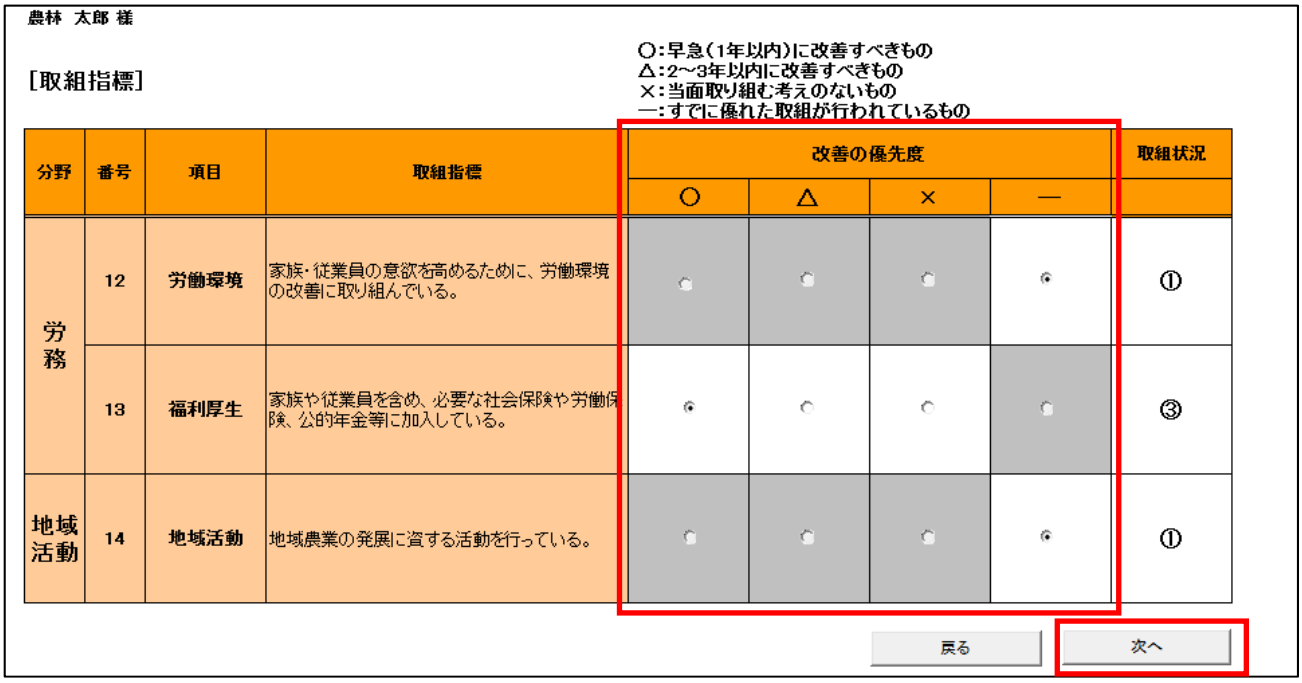
〇:早急(1年以内)に改善すべきもの
△:2～3年以内に改善すべきもの
×:当面取り組む考えのないもの
―:すでに優れた取組が行われているもの

[取組指標]

分野	番号	項目	取組指標	改善の優先度 〇	△	×	―	取組状況
経営管理	1	目標設定	中長期的に目指す経営の姿を経営目標として定め、家族・従業員等と共有している。	○	○	○	●	①
	2	計画立案	目標達成に向けた経営計画を立て、それに従って営農活動を行っている。	●	○	○	○	②
	3	評価・改善	定期的に経営状況の確認・評価を行い、経営改善を図っている。	○	●	○	○	②

戻る　次へ

「経営管理」に続いて、「生産」、「販売・加工」、「財務」、「労務、地域活動」の分野の取組指標が表示されます。それぞれの改善の優先度を選択し、『次へ』をクリックしてください（下図は「労務、地域活動」の画面）。


農林　太郎 様

〇:早急(1年以内)に改善すべきもの
△:2～3年以内に改善すべきもの
×:当面取り組む考えのないもの
―:すでに優れた取組が行われているもの

[取組指標]

分野	番号	項目	取組指標	改善の優先度 〇	△	×	―	取組状況
労務	12	労働環境	家族・従業員の意欲を高めるために、労働環境の改善に取り組んでいる。	○	○	○	●	①
	13	福利厚生	家族や従業員を含め、必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。	●	○	○	○	③
地域活動	14	地域活動	地域農業の発展に資する活動を行っている。	○	○	○	●	①

戻る　次へ

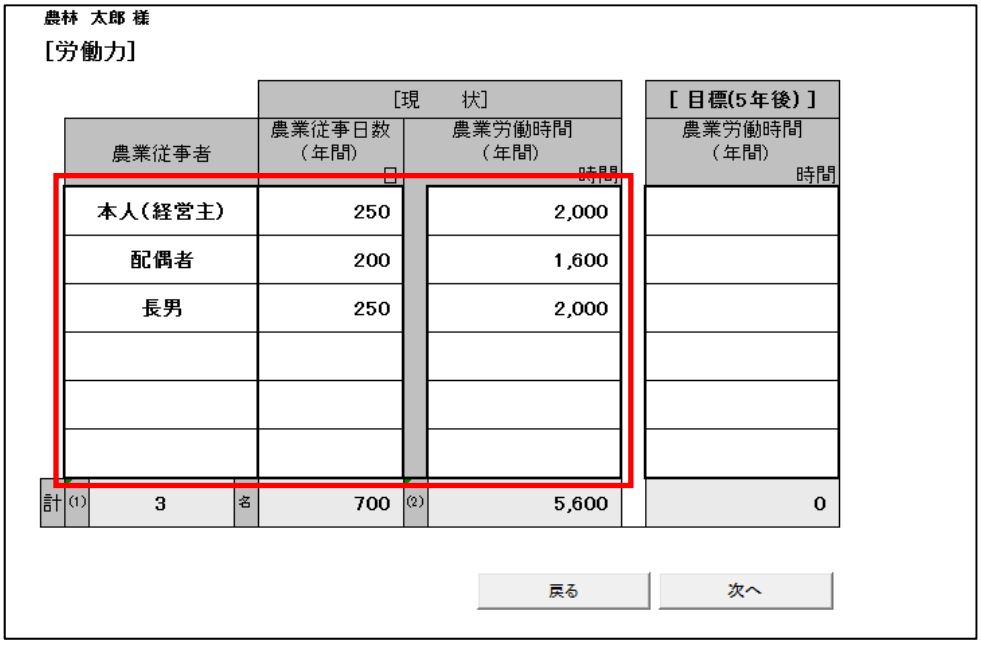
5　経営データの記入フォームの入力

「経営データの記入フォーム」で経営に関するデータを整理し、経営の現状と目標を数値の形で確認します。記入に際しては、経営改善計画の申請書や「青色申告決算書（農業所得用）」等を参照してください。ほとんどの項目が、これらを書類からそのまま転記するか、簡単な計算をすることで記入することができます。

5.1　労働力のデータ入力

①[現状]の入力

過去１年間の各農業従事者の農業従事日数及び農業労働時間を入力します。作業日誌等を参照してください。



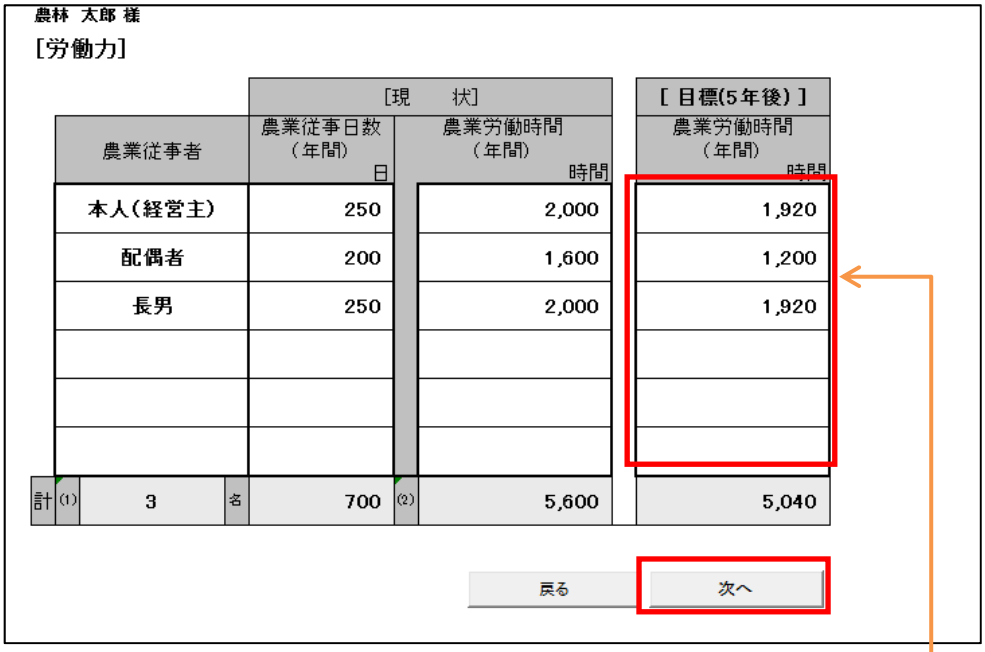
※　農業従事日数は１日８時間として計算してください。（経営改善計画における農業従事日数の記載方法と同じです。）

※　『計』の欄は自動で計算されます。

②[目標（５年後）]の入力

目標農業労働時間を入力します。経営改善計画等を参照してください。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。



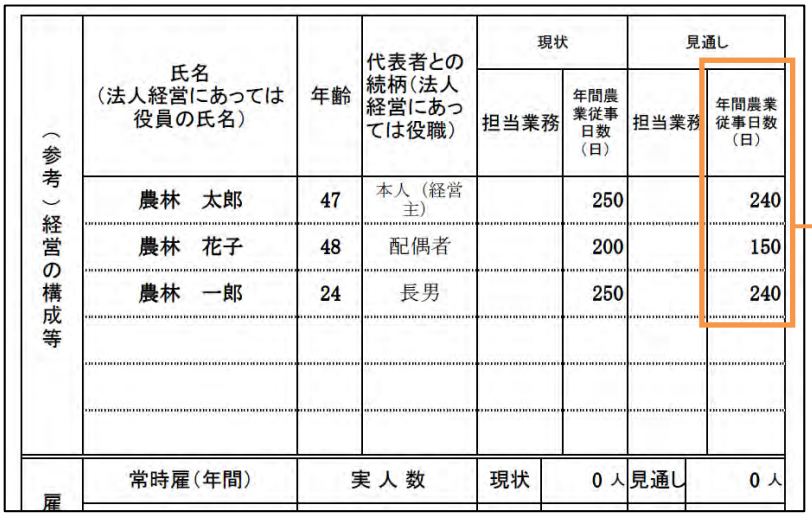
農林　太郎 様

[労働力]

農業従事者	[現　状] 農業従事日数（年間） 日	農業労働時間（年間） 時間	[目標(5年後)] 農業労働時間（年間） 時間
本人（経営主）	250	2,000	1,920
配偶者	200	1,600	1,200
長男	250	2,000	1,920
計 (1) 3 名	700 (2)	5,600	5,040

戻る　次へ

【経営改善計画（サンプル）】



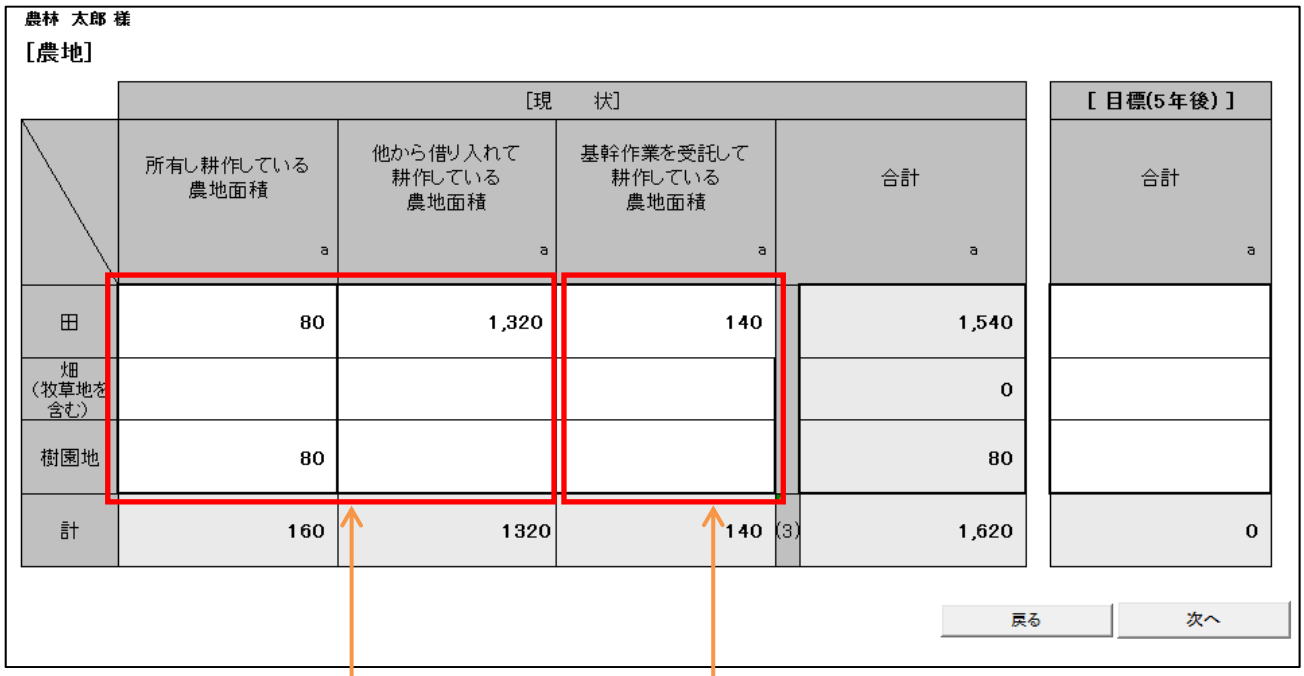
（参考）経営の構成等	氏名（法人経営にあっては役員の氏名）	年齢	代表者との続柄（法人経営にあっては役職）	現状 担当業務	現状 年間農業従事日数（日）	見通し 担当業務	見通し 年間農業従事日数（日）
	農林　太郎	47	本人（経営主）		250		240
	農林　花子	48	配偶者		200		150
	農林　一郎	24	長男		250		240
雇	常時雇（年間）	実 人 数		現状	0 人	見通し	0 人

5.2　農地のデータ入力

①[現状]の入力

『所有し耕作している農地面積』、『他から借り入れて耕作している農地面積』、『基幹作業を受託して耕作している農地面積』の現状を入力します。経営改善計画等を参照してください。

『基幹作業を受託して耕作している農地面積』には、作物の収穫までに必要な作業の多くを同一の者から受託している場合にその当該面積を入力してください。（例えば、稲作の場合には、耕起・代かき、田植え、稲刈りの３作業以上を受託している面積となります。）



農林　太郎 様

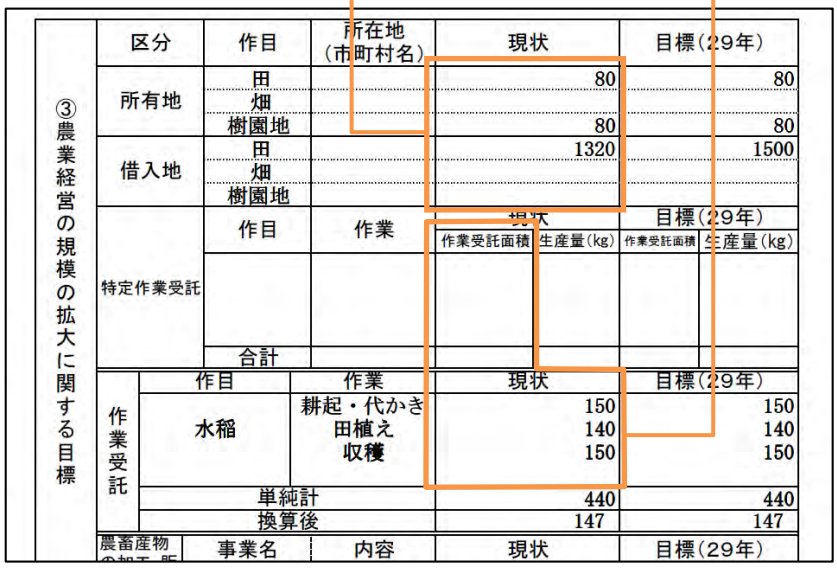
[農地]

	[現　状] 所有し耕作している農地面積 a	他から借り入れて耕作している農地面積 a	基幹作業を受託して耕作している農地面積 a	合計 a	[目標(5年後)] 合計 a
田	80	1,320	140	1,540	
畑（牧草地を含む）				0	
樹園地	80			80	
計	160	1320	140 (3)	1,620	0

戻る　次へ

【経営改善計画（サンプル）】

（※　経営改善計画から現状が変わっている場合は、現時点の農地面積を入力してください。）



③農業経営の規模の拡大に関する目標

区分	作目	所在地（市町村名）	現状	目標（29年）
所有地	田		80	80
	畑			
	樹園地		80	80
借入地	田		1320	1500
	畑			
	樹園地			

特定作業受託	作目	作業	現状 作業受託面積	現状 生産量(kg)	目標（29年） 作業受託面積	目標（29年） 生産量(kg)
	合計					

作業受託	作目	作業	現状	目標（29年）
	水稲	耕起・代かき	150	150
		田植え	140	140
		収穫	150	150
	単純計		440	440
	換算後		147	147

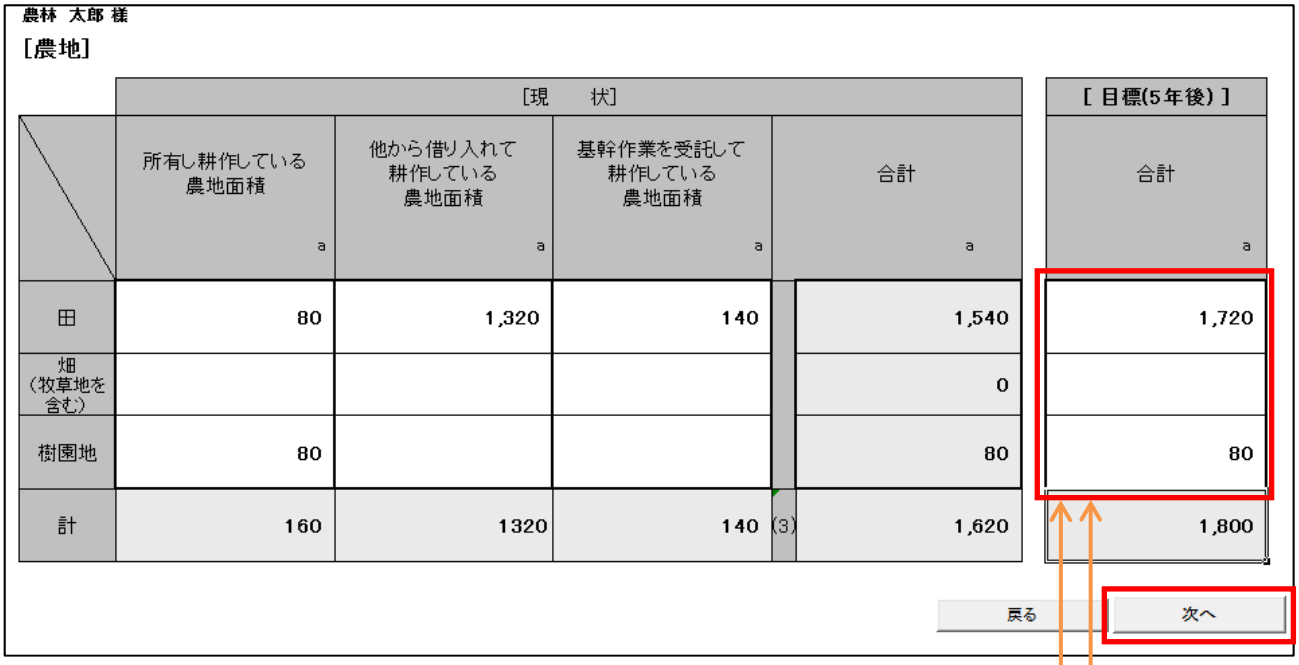
農畜産物の加工・販	事業名	内容	現状	目標（29年）

上記のサンプルの場合、水稲の基幹３作業（耕起・代かき、田植え、収穫）をすべて受託している面積は 140a なので、新たな農業経営指標では『基幹作業を受託して耕作している農地面積』として 140a と入力。

②[目標（5 年後）]の入力

目標農地面積を入力します。経営改善計画等を参照してください。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。



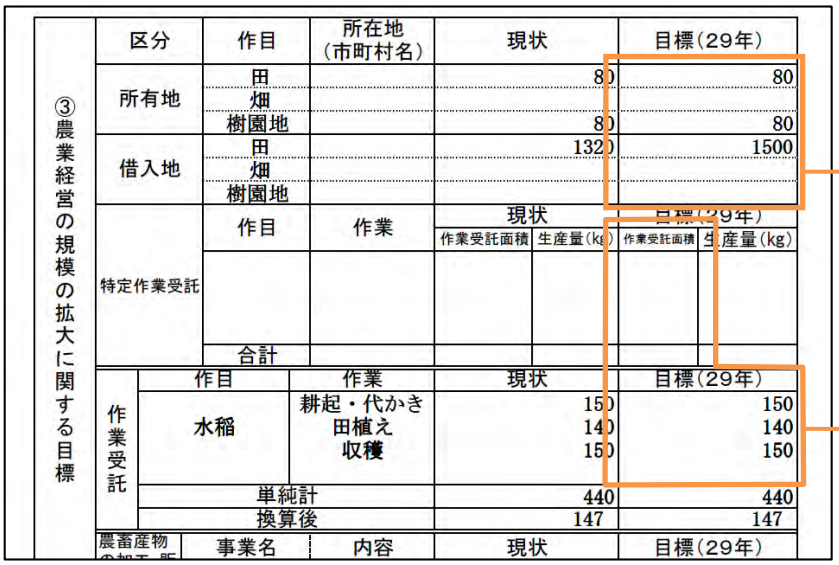
農林　太郎 様

[農地]

	[現　状] 所有し耕作している農地面積 a	他から借り入れて耕作している農地面積 a	基幹作業を受託して耕作している農地面積 a	合計 a	[目標(5年後)] 合計 a
田	80	1,320	140	1,540	1,720
畑（牧草地を含む）				0	
樹園地	80			80	80
計	160	1320	140 (3)	1,620	1,800

戻る　次へ

【経営改善計画（サンプル）】



③農業経営の規模の拡大に関する目標

区分	作目	所在地（市町村名）	現状	目標(29年)
所有地	田		80	80
	畑			
	樹園地		80	80
借入地	田		132	1500
	畑			
	樹園地			

特定作業受託	作目	作業	現状 作業受託面積	現状 生産量(kg)	目標(29年) 作業受託面積	目標(29年) 生産量(kg)
	合計					

作業受託	作目	作業	現状	目標(29年)
	水稲	耕起・代かき	150	150
		田植え	140	140
		収穫	150	150
	単純計		440	440
	換算後		147	147

農畜産物	事業名	内容	現状	目標(29年)

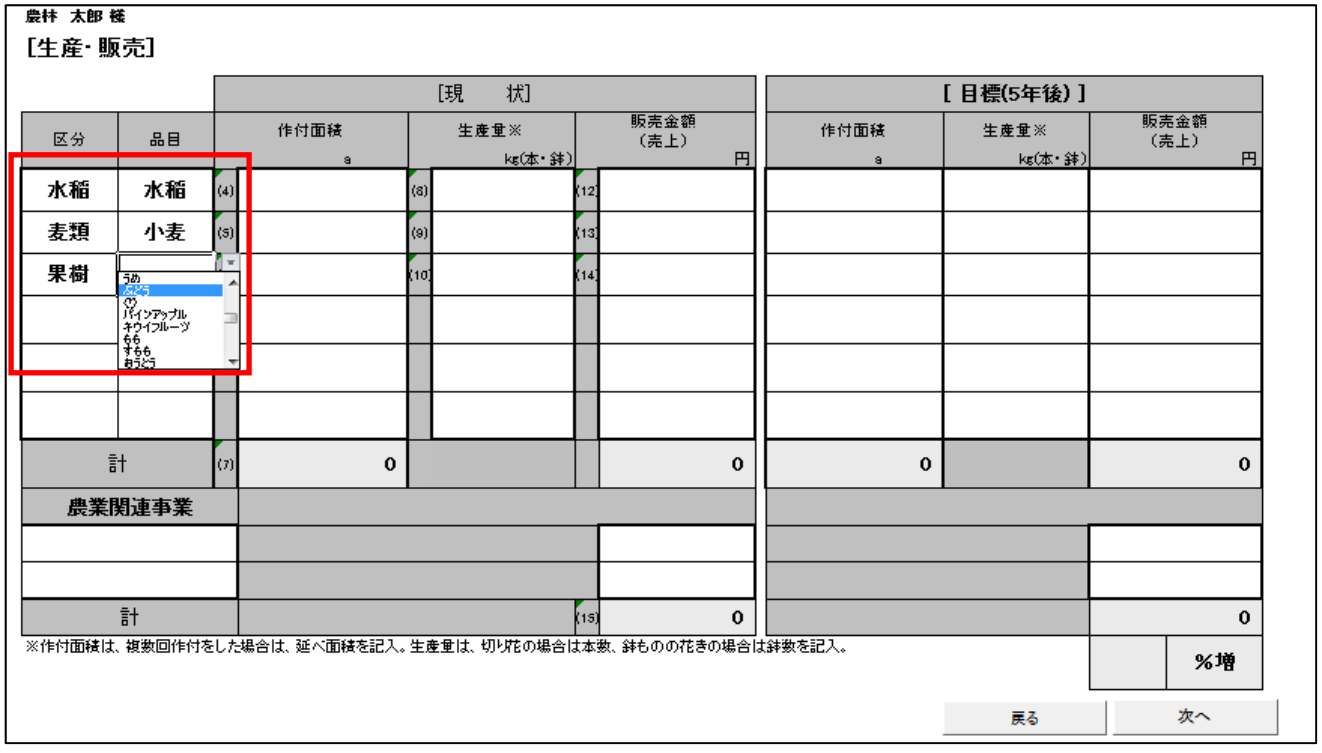
上記のサンプルの場合、『田』の面積は 80（所有地）＋1,500（借入地）＋140（受託面積）=1,720a、樹園地は 80a（所有地）となる。

5.3　生産・販売のデータ入力

①品目の選択

　栽培している品目を入力します。まず『区分』の下の枠をクリックすると、栽培している品目の大区分が選択できます。区分の選択が完了したのち、『品目』の下の枠をクリックすると、詳細な品目が選択できます。品目及び区分のリストは以下の表のとおりです。

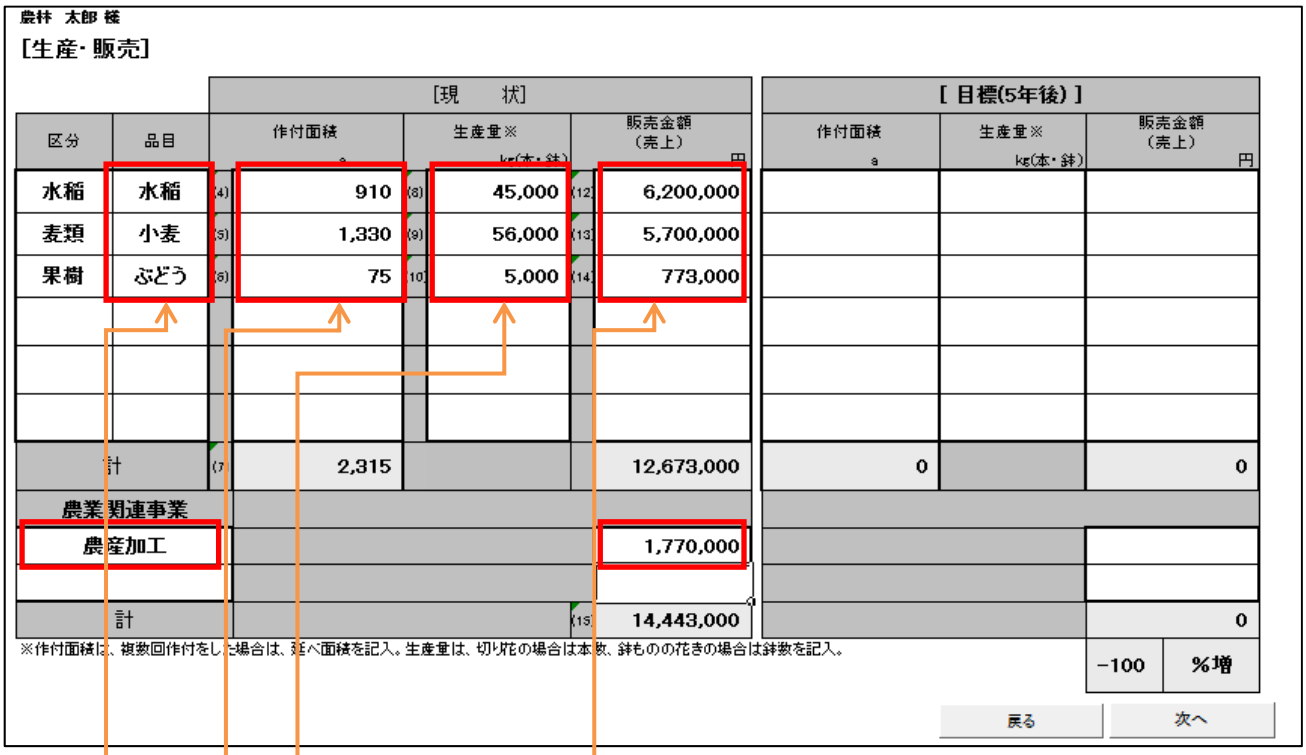
区分	品目
水稲	水稲
麦類	小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦
雑穀	そば
豆類	大豆、小豆、いんげん、らっかせい
かんしょ	かんしょ
飼料作物	牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー
工芸作物	茶、てんさい、さとうきび
特定作物	こんにゃくいも、い、なたね
ばれいしょ	ばれいしょ
野菜	だいこん、かぶ、にんじん、ごぼう、れんこん、さといも、やまのいも、はくさい、しゅんぎく、こまつな、キャベツ、ちんげんさい、ほうれんそう、ふき、みつば、セルリー、アスパラガス、カリフラワー、ブロッコリー、レタス、ねぎ、にら、たまねぎ、にんにく、きゅうり、かぼちゃ、なす、トマト、ピーマン、スイートコーン、さやいんげん、えんどう、えだまめ、そらまめ、しょうが、いちご、メロン
果樹	みかん_全般、みかん_早生温州、みかん_早生温州うちハウス、みかん_早生温州うち極早生、みかん_普通温州、リンゴ_全般、リンゴ_ふじ、リンゴ_つがる、リンゴ_ジョナゴールド、リンゴ_王林、日本なし、西洋なし、かき、びわ、うめ、ぶどう、くり、パインアップル、キウイフルーツ、もも、すもも、おうとう
花木ー切り花	きく_全般、きく_輪ぎく、きく_スプレイぎく、きく_小ぎく、ばら、かすみそう、洋らん類、スターチス、ガーベラ、トルコキキョウ、ゆり、アルストロメリア、切り葉、切り枝
花木ー鉢もの	切り枝、シクラメン、洋らん類、観葉植物、花木類
花木ー苗もの	パンジー
耕種その他	（※上記にない品目の場合、品目名を直接入力してください。）
酪農	生乳生産量
肉用牛	肥育牛
養豚	肥育豚
採卵鶏	鶏卵生産量
ブロイラー	鶏（肉用）
畜産その他	（※上記にない品目の場合、品目名を直接入力してください。）



②[現状]の入力

作付面積、生産量、販売金額（売上）の現状を入力します。青色申告決算書（農業所得用）等を参照してください。作付面積は、同一品目を複数回作付した場合、延べ面積を記入してください。

農産加工や農家レストラン等の事業を行っている場合には、「農業関連事業」の欄に事業名及び事業ごとの販売金額を記入してください。（金額は青色申告決算書（一般用）等を参照。）



農林　太郎 様

[生産・販売]

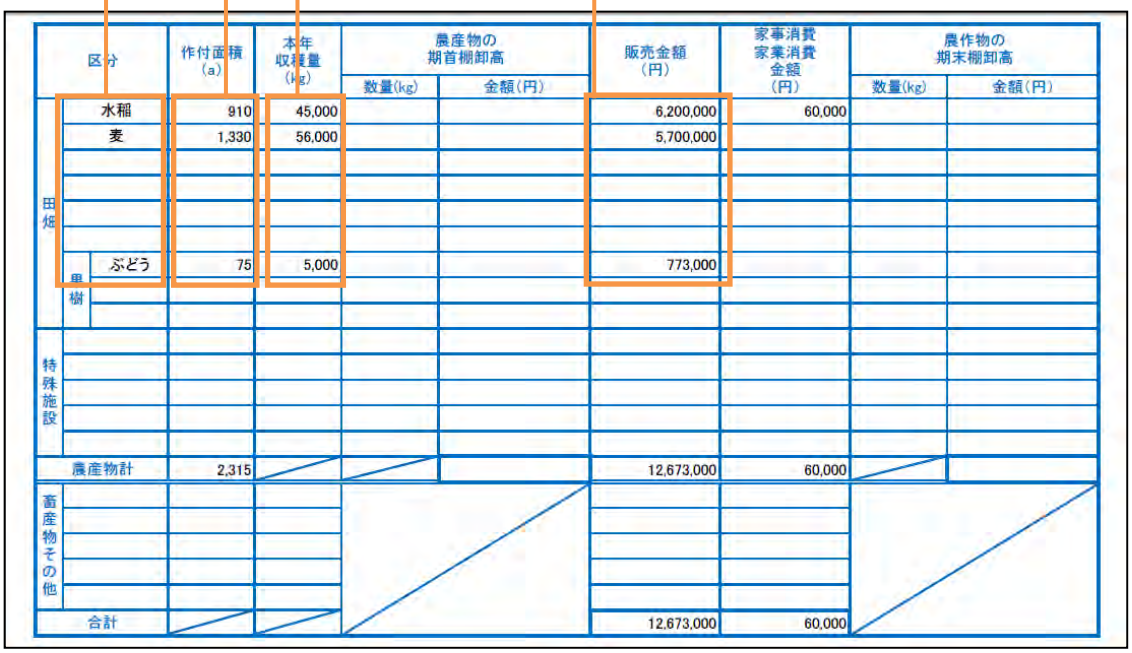
区分	品目	[現　状] 作付面積 a	[現　状] 生産量※ kg(本・鉢)	[現　状] 販売金額（売上） 円	[目標(5年後)] 作付面積 a	[目標(5年後)] 生産量※ kg(本・鉢)	[目標(5年後)] 販売金額（売上） 円
水稲	水稲	(4) 910	(8) 45,000	(12) 6,200,000			
麦類	小麦	(5) 1,330	(9) 56,000	(13) 5,700,000			
果樹	ぶどう	(6) 75	(10) 5,000	(14) 773,000			
計		(7) 2,315		12,673,000	0		0
農業関連事業							
農産加工				1,770,000			
計				(15) 14,443,000			0

※作付面積は、複数回作付をした場合は、延べ面積を記入。生産量は、切り花の場合は本数、鉢ものの花きの場合は鉢数を記入。

−100　%増

戻る　次へ

【青色申告決算書（農業用）のうち「収入金額の内訳」（サンプル）】

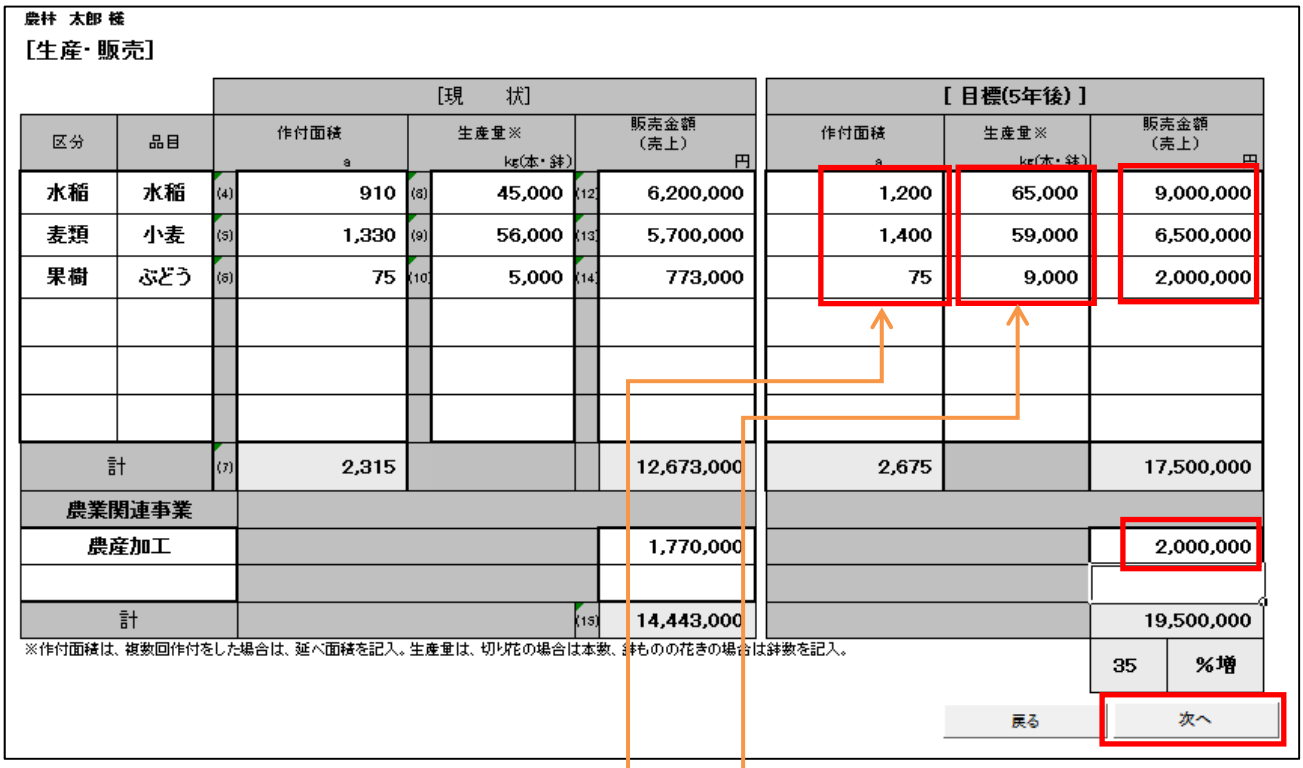


区分		作付面積 (a)	本年収穫量 (kg)	農産物の期首棚卸高 数量(kg)	農産物の期首棚卸高 金額(円)	販売金額 (円)	家事消費 家業消費 金額 (円)	農作物の期末棚卸高 数量(kg)	農作物の期末棚卸高 金額(円)
田畑	水稲	910	45,000			6,200,000	60,000		
	麦	1,330	56,000			5,700,000			
果樹	ぶどう	75	5,000			773,000			
特殊施設									
農産物計		2,315				12,673,000	60,000		
畜産物その他									
合計						12,673,000	60,000		

③目標（５年後）の入力

作付面積、生産量、販売金額（売上）の目標を入力します。経営改善計画等を参照してください。販売金額は、品目ごとにご自身の目標販売金額を入力してください。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。



農林　太郎 様

[生産・販売]

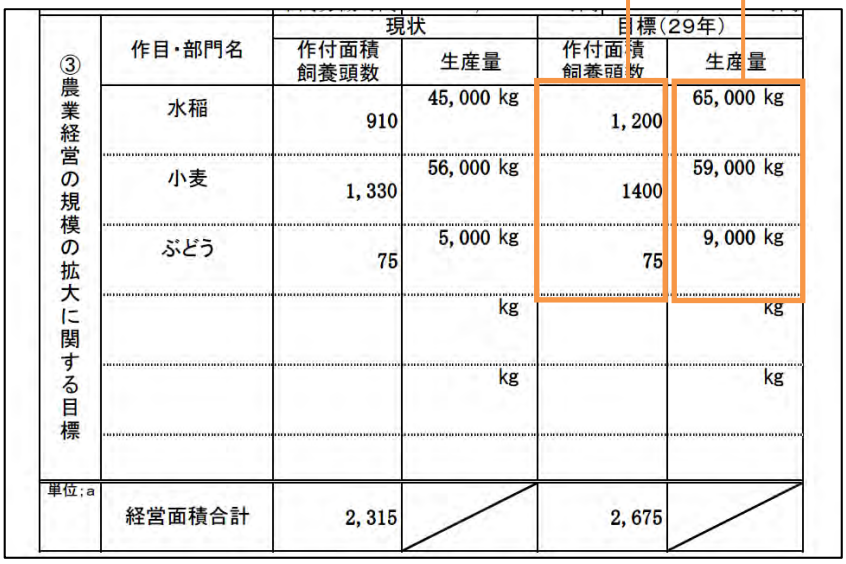
区分	品目		[現　状] 作付面積 a		生産量※ kg(本・鉢)		販売金額（売上） 円	[目標(5年後)] 作付面積 a	生産量※ kg(本・鉢)	販売金額（売上） 円
水稲	水稲	(4)	910	(8)	45,000	(12)	6,200,000	1,200	65,000	9,000,000
麦類	小麦	(5)	1,330	(9)	56,000	(13)	5,700,000	1,400	59,000	6,500,000
果樹	ぶどう	(6)	75	(10)	5,000	(14)	773,000	75	9,000	2,000,000
計		(7)	2,315				12,673,000	2,675		17,500,000
農業関連事業										
農産加工							1,770,000			2,000,000
計						(15)	14,443,000			19,500,000

※作付面積は、複数回作付をした場合は、延べ面積を記入。生産量は、切り花の場合は本数、鉢ものの花きの場合は鉢数を記入。

35　%増

戻る　次へ

【経営改善計画（サンプル）】



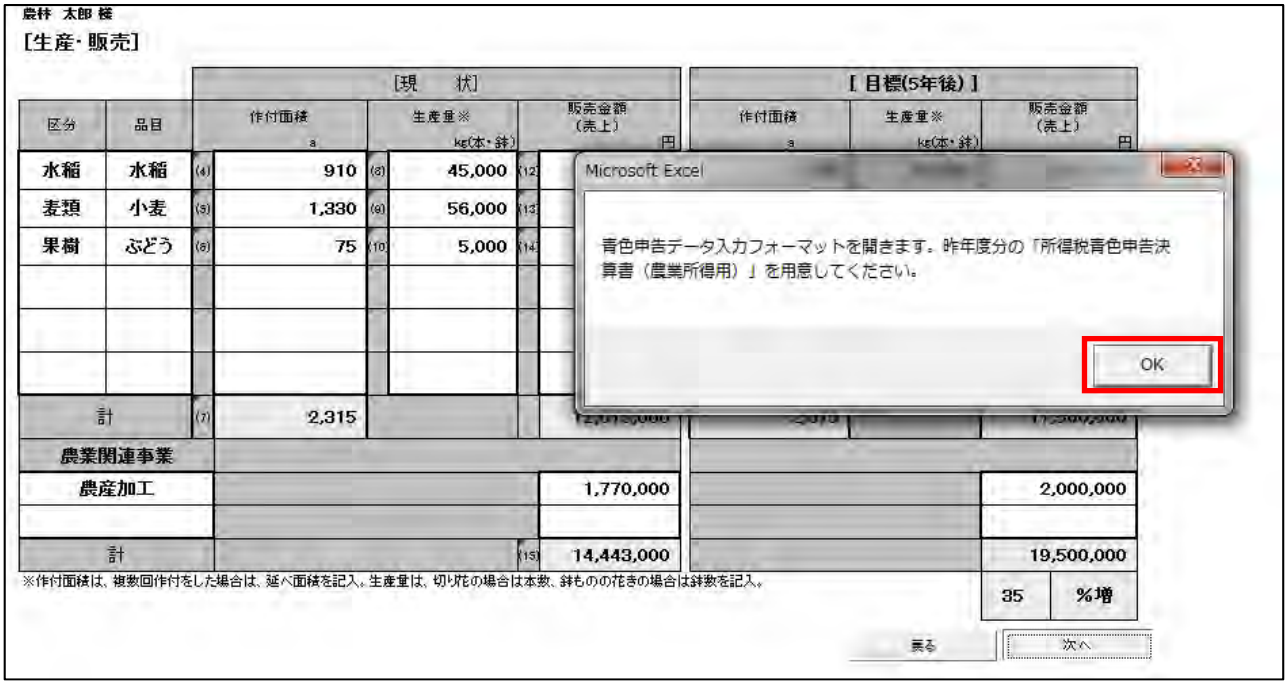
	作目・部門名	現状 作付面積 飼養頭数	現状 生産量	目標(29年) 作付面積 飼養頭数	目標(29年) 生産量
③農業経営の規模の拡大に関する目標	水稲	910	45,000 kg	1,200	65,000 kg
	小麦	1,330	56,000 kg	1400	59,000 kg
	ぶどう	75	5,000 kg	75	9,000 kg
			kg		kg
			kg		kg
単位:a	経営面積合計	2,315		2,675	

5.4　財務のデータ入力（青色申告をしている場合）

財務データを入力します。基本情報で青色申告について『している』を選択している場合、青色申告決算書（農業所得用）の損益計算書をそのまま転記することで、新たな農業経営指標の様式に自動で集計することができます。

①損益計算書の入力（青色申告データ入力フォーマット）

［生産・販売］のデータを入力後、『次へ』を押すと、『青色申告データ入力フォーマットを開きます。昨年度分の「所得税青色申告決算書（農業所得用）」を用意してください。』との表示が出ますので、『OK』をクリックしてください。



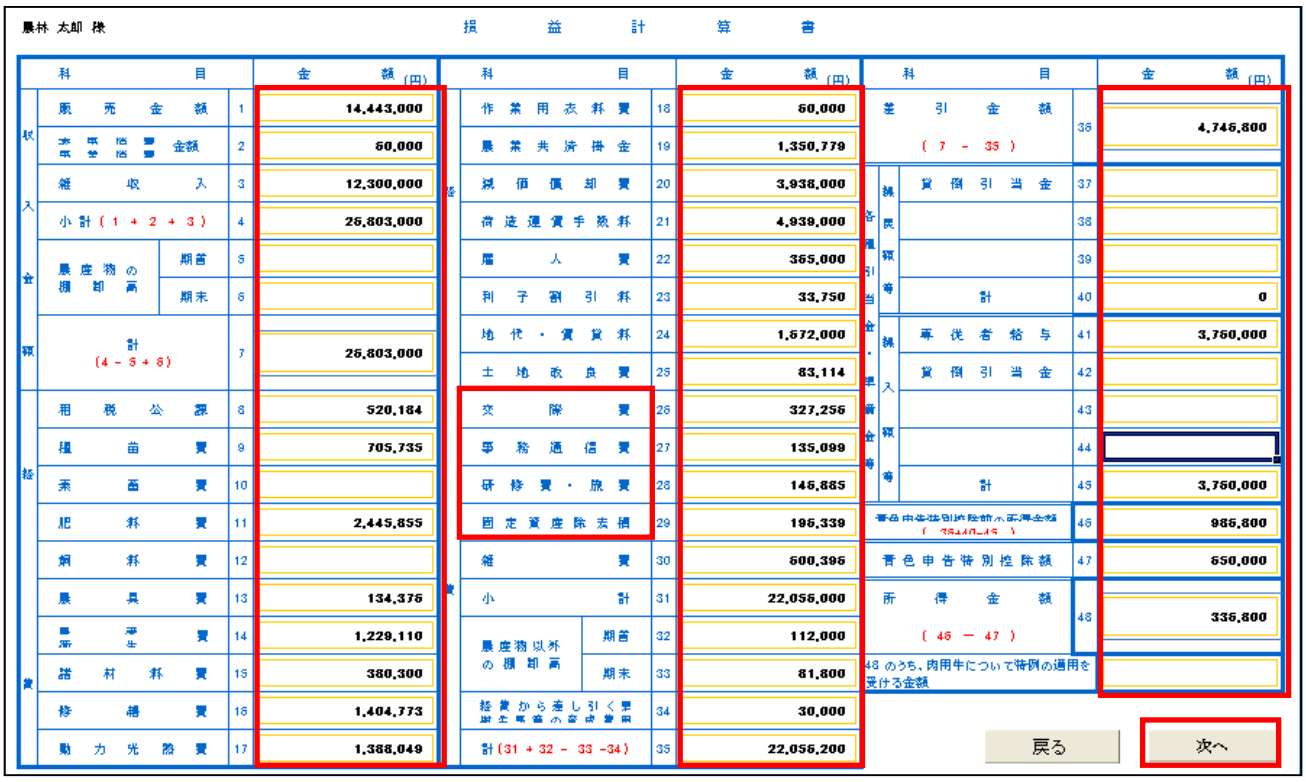
<u>法人経営の場合の財務データの入力について</u>

法人経営をしており、青色申告決算書（農業用）のような形で財務データを整理していない場合は、基本情報で青色申告を『していない』を選択の上、決算書等をもとに、P30 の仕分けに従って各科目を記入してください。

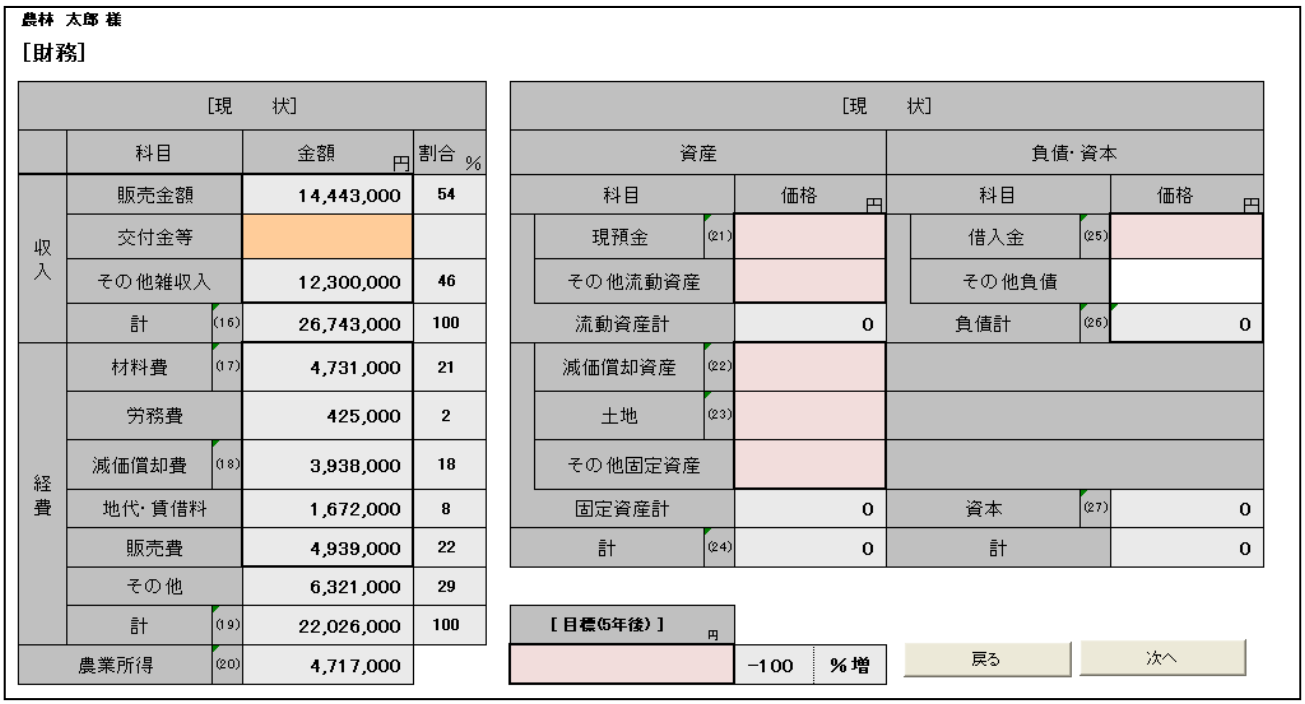
②青色申告決算書からの転記

青色申告決算書（農業所得用）を用意し、損益計算書部分について、該当箇所に同じ金額を入力してください。共通科目以外の経費等についても、直接入力することができます。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。

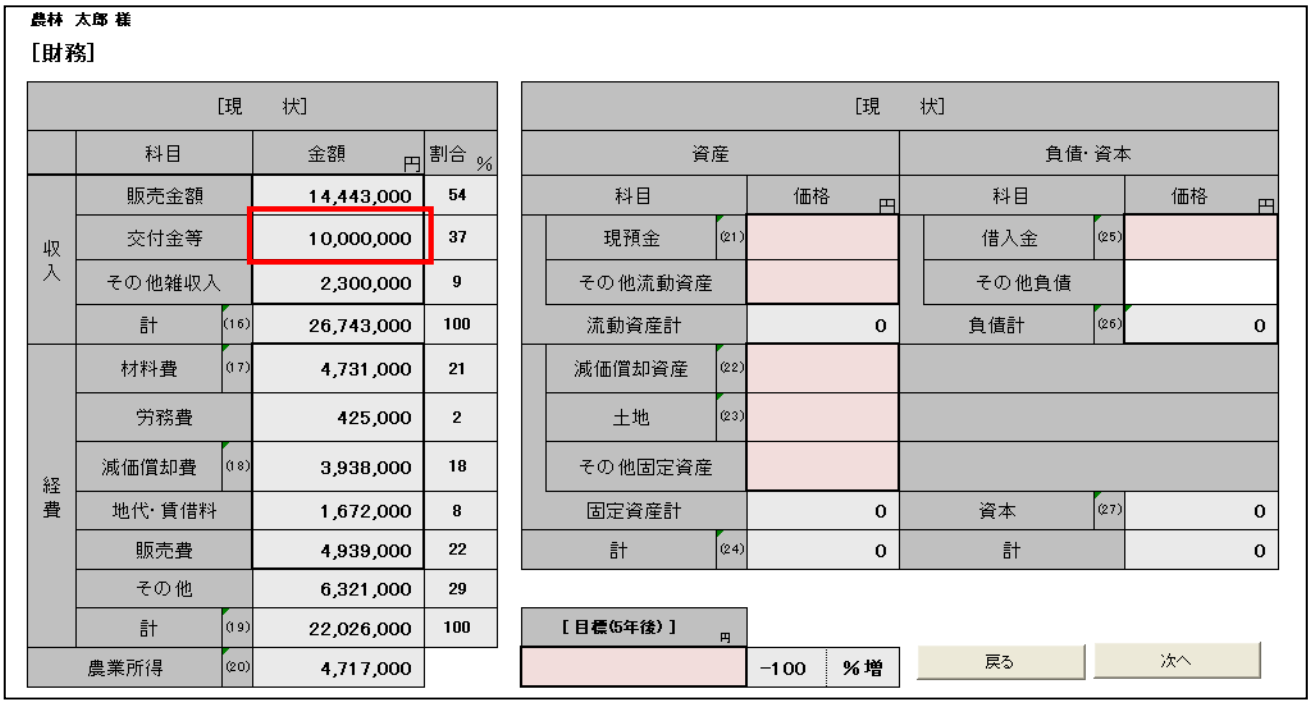


『次へ』をクリックすると、以下の画面が表示されます。以下の図の左表（損益計算書）の数値が自動で集計されて表示されます。



③交付金の金額の入力

上記でオレンジ色に着色されている『交付金等』の金額欄については、損益計算書の雑収入のうち、補助金や助成金等として国や地方公共団体から受給した金額を入力してください。入力すると、『その他雑収入』から、入力した『交付金等』の金額が自動で差し引かれます。



新たな農業経営指標における「農業所得」の考え方

新たな農業経営指標では、農業所得について、経営の実態がより明確になるよう、実際には収入や支出が発生しない家事消費・事業消費金額や専従者給与等を利用せずに算出しています。このため、新たな農業経営指標において算出される農業所得は、青色申告決算書における農業所得とは一致しないことがあります。

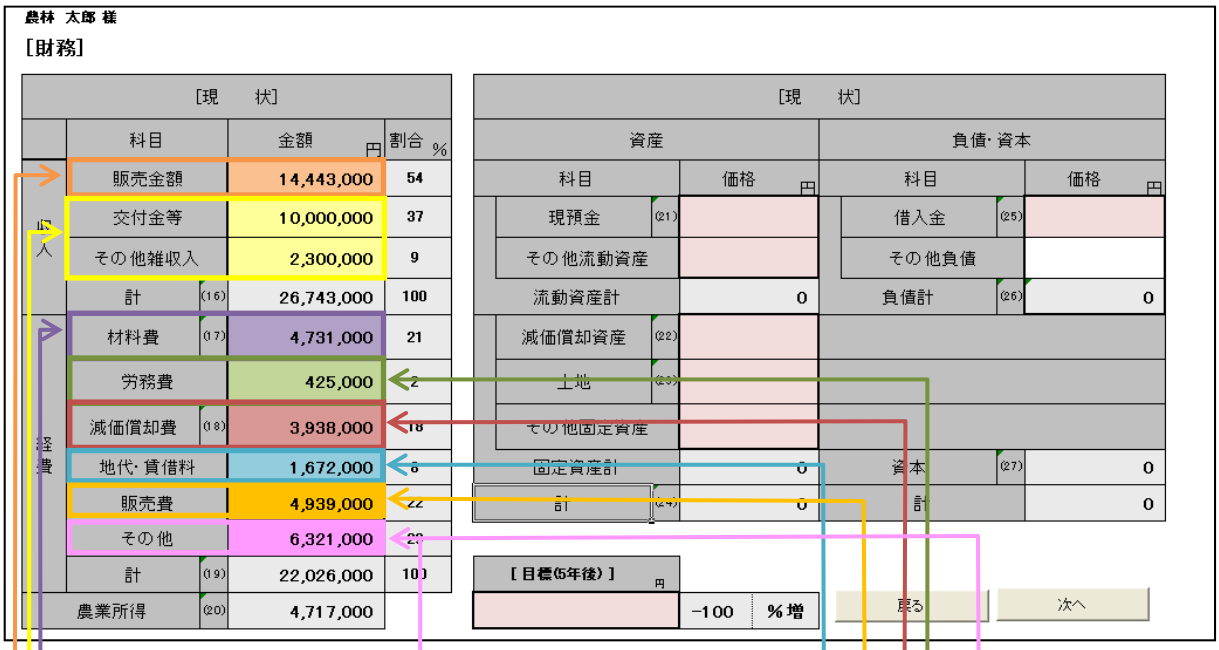
《参考：新たな農業経営指標と青色申告決算書（農業所得用）の損益計算書の科目の関係》

青色申告データ入力フォーマットを活用せずに、青色申告決算書（農業所得用）から、新たな農業経営指標の各科目に該当する金額を集計し、フォームの該当項目の欄に直接入力することもできます。

新たな農業経営指標と青色申告決算書（農業所得用）の損益計算書の科目の関係は以下のとおりです。

	科目	青色申告決算書における科目（損益計算書）等
収入	販売金額	「販売金額①」
	交付金等	「雑収入③」のうち、補助金や助成金等として国等から受給した額（事業者が把握している額）
	その他雑収入	「雑収入③」から、上記の交付金等を除いた額
	計	（自動計算）
経費	材料費	「種苗費⑨」、「素畜費⑩」、「肥料費⑪」、「飼料費⑫」、「農薬・衛生費⑭」、「諸材料費⑮」の合計から、「経費から差し引く果樹、牛馬等の育成費用 ㉞」を引いた額
	労務費	「雇人費 ㉒」、「作業用衣料費⑱」の合計
	減価償却費	「減価償却費⑳」
	地代・賃借料	「地代・賃借料 ㉔」
	販売費	「荷造運賃手数料 ㉑」
	その他	上記のいずれにも該当しない経費（「租税公課⑧」、「農具費⑬」、「修繕費⑯」、「動力光熱費⑰」、「農業共済掛金⑲」、「利子割引料 ㉓」、「土地改良費㉕」、「雑費㉚」等）の合計
	計	（自動計算）
農業所得		（自動計算）

農業経営指標分析プログラムの画面でみると、以下のサンプルのようになります。



農林 太郎 様

[財務]

[現　状]

	科目		金額 円	割合 %
収入	販売金額		14,443,000	54
	交付金等		10,000,000	37
	その他雑収入		2,300,000	9
	計	(16)	26,743,000	100
経費	材料費	(17)	4,731,000	21
	労務費		425,000	2
	減価償却費	(18)	3,938,000	18
	地代・賃借料		1,672,000	8
	販売費		4,939,000	22
	その他		6,321,000	28
	計	(19)	22,026,000	100
農業所得		(20)	4,717,000	

[現　状]

資産			負債・資本		
科目		価格 円	科目		価格 円
現預金	(21)		借入金	(25)	
その他流動資産			その他負債		
流動資産計		0	負債計	(26)	0
減価償却資産	(22)				
土地	(23)				
その他固定資産					
固定資産計		0	資本	(27)	0
計	(24)	0	計		0

[目標(5年後)] 円

−100 % 増

戻る　次へ

【青色申告決算書（農業所得用）のうち「損益計算書」（サンプル）】

科目		金額（円）
販売金額	1	14,443,000
家事消費・事業消費金額	2	60,000
雑収入	3	12,300,000
小計	4	26,803,000
農産物の期首棚卸高	5	
農産物の期末棚卸高	6	
計	7	26,803,000
租税公課	8	520,184
種苗費	9	705,735
素畜費	10	
肥料費	11	2,445,855
飼料費	12	
農具費	13	134,376
農薬・衛生費	14	1,229,110
諸材料費	15	380,300
修繕費	16	1,404,773
動力光熱費	17	1,388,049

科目		金額（円）
作業用衣料費	18	60,000
農業共済掛金	19	1,350,779
減価償却費	20	3,938,000
荷造運賃手数料	21	4,939,000
雇人費	22	365,000
利子割引料	23	33,750
地代・賃借料	24	1,672,000
土地改良費	25	83,114
交際費	26	327,256
事務通信費	27	135,099
研修費・旅費	28	146,885
固定資産除却損	29	196,339
雑費	30	600,396
小計	31	22,056,000
農産物以外の期首棚卸高	32	112,000
農産物以外の期末棚卸高	33	81,800
経費から差し引く果樹牛馬等の育成費用	34	30,000
計	35	22,056,200

科目		金額（円）
差引金額	36	4,746,800
貸倒引当金	37	
	38	
	39	
計	40	
専従者給与	41	3,760,000
貸倒引当金	42	
基盤強化準備金繰入れ	43	
	44	
計	45	3,760,000
青色申告特別控除前の所得	46	986,800
青色申告特別控除額	47	650,000
所得金額	48	336,800

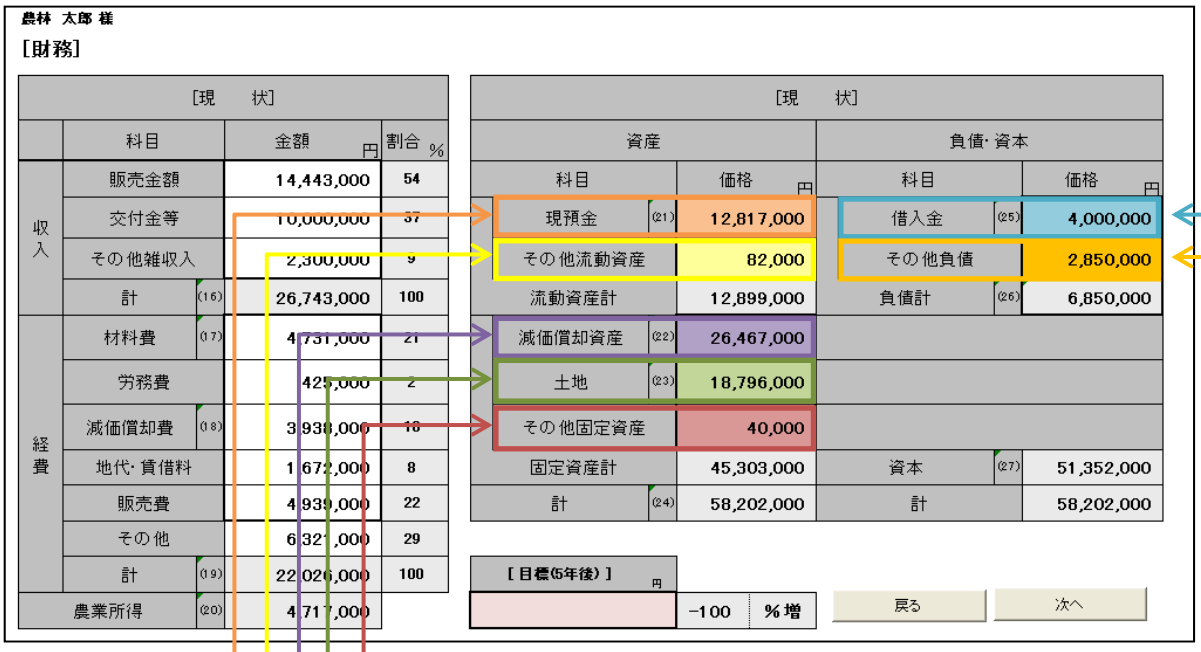
④貸借対照表の入力

青色申告決算書（農業所得用）から、新たな農業経営指標の各科目に該当する金額を集計し、フォームの該当項目の欄に金額を記入してください。

新たな農業経営指標と青色申告決算書（農業所得用）の貸借対照表の科目の関係は以下のとおりです。

資　　産			負債・資本		
科目		青色申告書における科目 （貸借対照表の期末）	科目		青色申告書における科目 （貸借対照表の期末）
	現預金	「現金」、「普通預金」、「定期預金」、「その他の預金」の合計		借入金	「借入金」
	その他流動資産	「売掛金」、「未収金」、「有価証券」、「農産物等」、「未収穫農産物等」、「肥料その他の貯蔵品」、「前払金」、「貸付金」の合計		その他負債	「買掛金」、「未払金」、「前受金」、「預り金」、「貸倒引当金」の合計 （農業経営基盤強化準備金がある場合はここに含める）
流動資産計		（自動計算）	負債計		（自動計算）
	減価償却資産	「建物・構築物」、「農機具等」、「果樹・牛馬等」の合計	資本		資産「計」から負債「計」を差し引いた額 （自動計算）
	土　地	「土地」			
	その他固定資産	「未成熟の果樹・育成中の牛馬等」、「土地改良事業受益者負担金」の合計 （保険積立金や経営安定積立金、出資金がある場合はここに含める）			
固定資産計		（自動計算）			
計		（自動計算）	計		（自動計算）

農業経営指標分析プログラムの画面でみると、以下のサンプルのようになります。



農林 太郎 様

[財務]

[現　状]			
	科目	金額 円	割合 %
収入	販売金額	14,443,000	54
	交付金等	10,000,000	37
	その他雑収入	2,300,000	9
	計 (16)	26,743,000	100
経費	材料費 (17)	4,731,000	21
	労務費	425,000	2
	減価償却費 (18)	3,938,000	18
	地代・賃借料	1,672,000	8
	販売費	4,939,000	22
	その他	6,321,000	29
	計 (19)	22,026,000	100
農業所得 (20)		4,717,000	

[現　状]				
資産			負債・資本	
科目	価格 円		科目	価格 円
現預金 (21)	12,817,000		借入金 (25)	4,000,000
その他流動資産	82,000		その他負債	2,850,000
流動資産計	12,899,000		負債計 (26)	6,850,000
減価償却資産 (22)	26,467,000			
土地 (23)	18,796,000			
その他固定資産	40,000			
固定資産計	45,303,000		資本 (27)	51,352,000
計 (24)	58,202,000		計	58,202,000

[目標(5年後)] 円	−100	%増	戻る	次へ

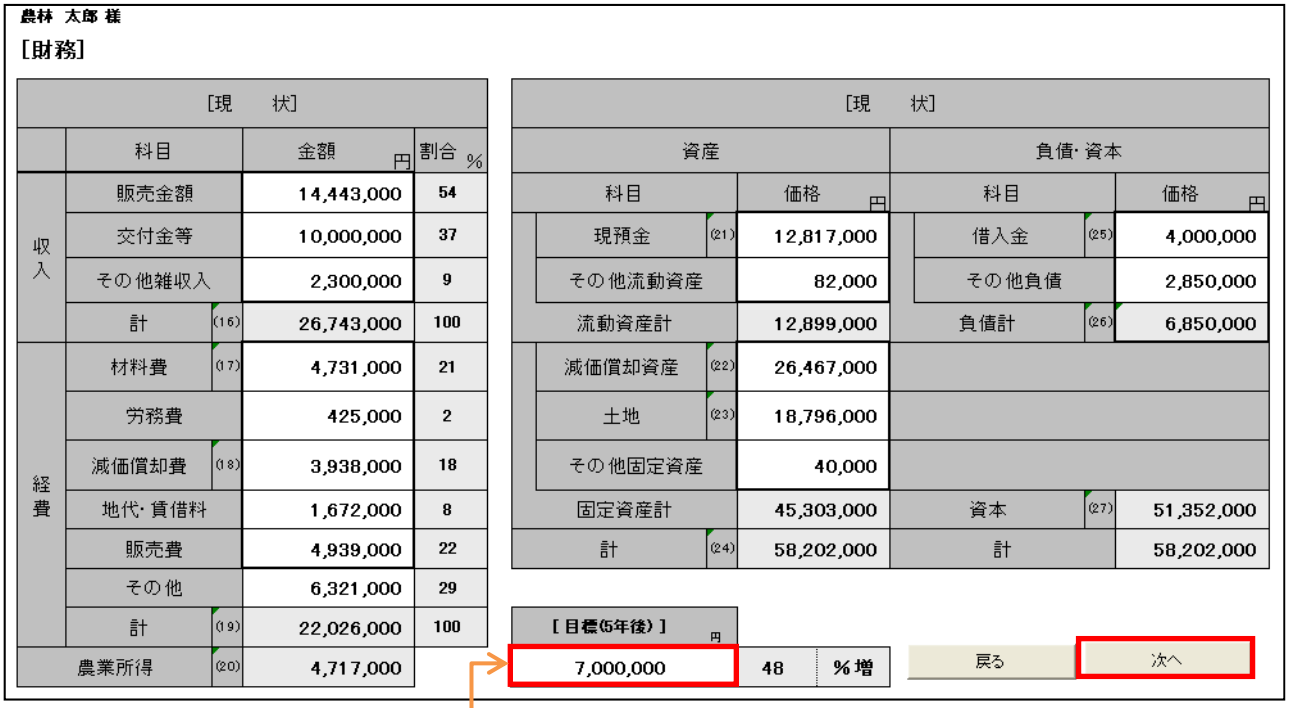
【青色申告決算書（農業所得用）のうち「貸借対照表」（サンプル）】

資産の部			負債・資本の部		
科　目	1月1日（期首）	12月31日（期末）		1月1日（期首）	12月31日（期末）
現金	364,488	147,707	買掛金		
普通預金	7,108,907	8,169,293	借入金	4,500,000	4,000,000
定期預金	3,500,000	4,500,000	未払金		
その他の預金			前受金		
売掛金			預り金		
未収金	337,500		基盤強化準備金	2,850,000	2,850,000
有価証券			貸倒引当金		
農産物等					
未収穫農産物等					
未成熟の果樹、育成中の牛馬		30,000			
肥料その他の貯蔵品	112,000	82,000			
前払金					
貸付金					
建物・構築物	20,568,768	19,269,500			
農機具等	6,932,963	6,629,220			
果樹・牛馬等	598,353	568,280			
土地	18,796,471	18,796,000			
土地改良事業受益者負担金			事業主借		2,497,990
出資金	10,000	10,000	事業主貸		
			元入金	50,979,450	50,979,450
事業主貸		2,422,240	青色申告特別控除前の所得		306,800
合計	58,329,450	60,624,240	合計	58,329,450	60,634,240

⑤農業所得の目標（5 年後）の入力

農業所得の目標を入力します。経営改善計画等を参照してください。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。



農林 太郎 様

[財務]

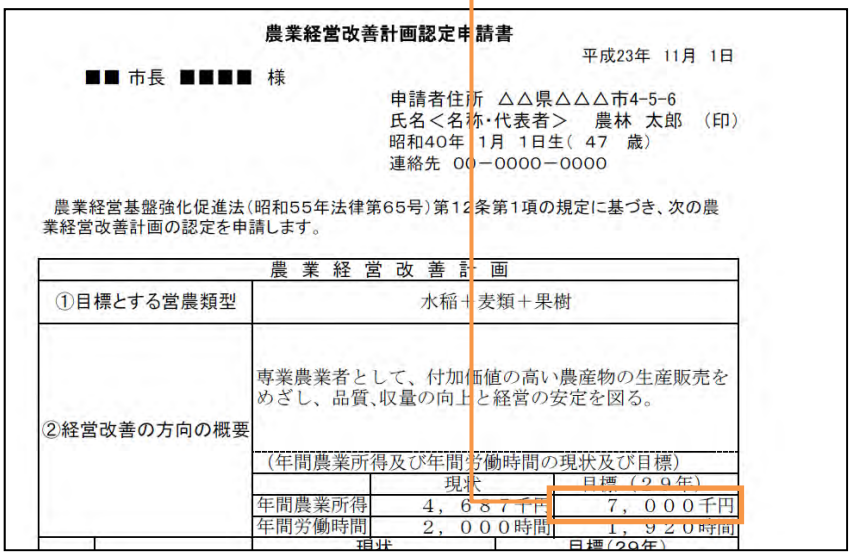
[現　状]				
	科目		金額 円	割合 %
収入	販売金額		14,443,000	54
	交付金等		10,000,000	37
	その他雑収入		2,300,000	9
	計	(16)	26,743,000	100
経費	材料費	(17)	4,731,000	21
	労務費		425,000	2
	減価償却費	(18)	3,938,000	18
	地代・賃借料		1,672,000	8
	販売費		4,939,000	22
	その他		6,321,000	29
	計	(19)	22,026,000	100
農業所得		(20)	4,717,000	

[現　状]					
資産			負債・資本		
科目		価格 円	科目		価格 円
現預金	(21)	12,817,000	借入金	(25)	4,000,000
その他流動資産		82,000	その他負債		2,850,000
流動資産計		12,899,000	負債計	(26)	6,850,000
減価償却資産	(22)	26,467,000			
土地	(23)	18,796,000			
その他固定資産		40,000			
固定資産計		45,303,000	資本	(27)	51,352,000
計	(24)	58,202,000	計		58,202,000

[目標(5年後)] 円		
7,000,000	48	%増

戻る　次へ

【経営改善計画（サンプル）】



農業経営改善計画認定申請書

平成23年　11月　1日

■■ 市長 ■■■■ 様

申請者住所　△△県△△△市4-5-6
氏名＜名称・代表者＞　農林　太郎　（印）
昭和40年　1月　1日生（　47　歳）
連絡先　00－0000－0000

農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号）第12条第1項の規定に基づき、次の農業経営改善計画の認定を申請します。

農業経営改善計画			
①目標とする営農類型	水稲＋麦類＋果樹		
②経営改善の方向の概要	専業農業者として、付加価値の高い農産物の生産販売をめざし、品質、収量の向上と経営の安定を図る。		
	（年間農業所得及び年間労働時間の現状及び目標）		
		現状	目標（29年）
	年間農業所得	4，687千円	7，000千円
	年間労働時間	2，000時間	1，920時間
		現状	目標（29年）

<u>農業所得について</u>

新たな農業経営指標における農業所得の目標については、専従者給与等も含め、経営全体の農業所得を記入してください。

5.5　財務のデータ入力（青色申告をしていない場合）

以下の科目と計上すべき経費の対照表及び青色申告をしている場合の記載方法（P25～29）を参考に、帳簿、通帳、伝票等を用いて、可能な限り該当する項目の金額を入力してください。

入力が終わったら、『次へ』をクリックしてください。

※　経営を的確にとらえるためには、複式簿記による記帳は非常に重要です。次年度以降、複式簿記による記帳を行い、青色申告を行うよう心がけてください。

科目	計上すべき経費
材料費	**種苗費**（種もみ、苗類、種いもなどの購入費用）、**素畜費**（育成牛（子牛）や子豚の購入に要した代金）、**肥料費**（肥料の購入費用）、**飼料費**（飼料の購入費用）、**農薬・衛生費**（農薬の購入費用や共同防除費）、**諸材料費**（ビニール、むしろ、なわ、釘、針金などの諸材料の購入費用）
労務費	**雇人費**（常雇・臨時雇人などの労賃及び賄費）、**作業用衣料費**（作業衣、地下たびなどの購入費用）
減価償却費	**減価償却費**（建物、農機具、車両、搾乳牛などの償却費）
地代・賃借料	農地の賃借料、農地以外の土地、建物の賃借料、賃耕料、農機具の賃借料、農業協同組合などの共同施設利用料
販売費	**荷造運賃手数料**（出荷の際の包装費用、運賃や出荷（荷受）機関に支払う手数料）
その他経費	**租税公課**（税込経理方式による消費税及び地方消費税の納付税額、事業税、固定資産税（土地、建物、償却資産）、自動車税（取得税、重量税を含む。）、不動産取得税などの税金、水利費、農業協同組合費などの公課）、**農具費**（使用期間が 1 年未満か取得価額が 10 万円未満の農具の購入費）、**修繕費**（農機具、農用自動車、建物及び施設などの修理に要した費用）**動力光熱費**（電気料、水道料、ガス代、灯油やガソリンなどの燃料費）、**農業共済掛金**（水稲、果樹、家畜などに係る共済掛金）、**利子割引料**（事業用資金の借入金の利子や受取手形の割引料など）、**土地改良費**（土地改良事業の費用や客土費用）、**雑費**（農業経営上の費用で他の経費に当てはまらない経費）、**その他交際費**や**事務通信費**等
現預金	農業経営における、**現金**、**普通預金**、**定期預金**、**その他の預金**（積立金等）
その他流動資産	**売掛金**（農産物販売金額の未収金）、**未収金**（農産物販売金額以外の未収金）、**有価証券**、**農産物等棚卸高**、**未収穫農産物等の棚卸高**（立毛作物の棚卸高（おおむね種苗費、肥料費、薬剤費の計）、販売用動物の棚卸高（種付費・素畜費、飼料費、労務費の計））、**肥料その他の貯蔵品の棚卸高**（肥料、飼料、農薬、燃料などの棚卸高）、**前払金**（費用、資産購入等の代金の前払金）、**貸付金**
減価償却資産	**建物・構築物の未償却残高**、**農機具等の未償却残高**（機械装置、車両運搬具、器具備品の未償却残高）、**果樹・牛馬等の未償却残高**（果樹、ほだ木、乳牛、繁殖牛、繁殖豚の未償却残高
土地	農業経営用農地・宅地等の固定資産税評価額
その他固定資産	**未成熟の果樹の育成費用**（種苗費、肥料費、薬剤費の計）、**未成熟ほだ木の育成費用**（ほだ木取得費、種苗費の計）、**乳牛・肉用繁殖牛の育成費用**（種付費・素畜費、飼料費の計）、**土地改良事業受益者負担金**、**保険積立金**（農業用資産の積立保険料）、**経営安定積立金**（収入減少影響緩和対策や加工原料乳生産者経営安定対策の生産者積立金）、**出資金**（農協への出資金等）
借入金	**短期借入金**（返済期間 1 年未満の借入金）、**長期借入金**（返済期間 1 年以上の借入金）
その他負債	**買掛金**（直接生産に用いる原材料等の購入代金の未払金）、**未払金**（買掛金以外の未払金）、**前受金**（生産物の販売を前提にした予約金等）、**預り金**（専従者給与の源泉所得税の預り金等）、**農業経営基盤強化準備金**、**貸倒引当金**（売掛金の回収不能に備えた一定比率の積立金）

農林 太郎 様

[財務]

[現　状]				
	科目		金額 円	割合 %
収入	販売金額		14,443,000	54
	交付金等		10,000,000	37
	その他雑収入		2,300,000	9
	計	(16)	26,743,000	100
経費	材料費	(17)	4,731,000	21
	労務費		425,000	2
	減価償却費	(18)	3,938,000	18
	地代･賃借料		1,672,000	8
	販売費		4,939,000	22
	その他		6,321,000	29
	計	(19)	22,026,000	100
農業所得		(20)	4,717,000	

[現　状]					
資産				負債･資本	
科目		価格 円		科目	価格 円
現預金	(21)	12,817,000		借入金 (25)	4,000,000
その他流動資産		82,000		その他負債	2,850,000
流動資産計		12,899,000		負債計 (26)	6,850,000
減価償却資産	(22)	26,467,000			
土地	(23)	18,796,000			
その他固定資産		40,000			
固定資産計		45,303,000		資本 (27)	51,352,000
計	(24)	58,202,000		計	58,202,000

[目標(5年後)] 円		
7,000,000	48	%増

戻る　次へ

6　評価結果シートの出力

「経営改善のためのチェックリスト」と「経営データの記入フォーム」で入力した内容に基づき、以下の図のような「経営改善のためのチェックリスト」、「経営データの記入フォーム」、「指標による評価結果シート」が自動で出力されます（出力まで多少時間がかかることがあります。）。以下では、「指標による評価結果シート」について、解説します。

経営改善のためのチェックリスト

農林 太郎 様　　年度分（　　年　　月　　日作成）

［取組指標］

分野	番号	項目	取組指標	選択肢	取組状況	改善の優先度
経営管理	1	目標設定	中長期的に目指す経営の姿を経営目標として定め、家族・従業員等と共有している。	①明確な目標を立て、それを家族・従業員等と共有できている。 ②目標は立てているが、家族・従業員等と十分に共有できておらず、自分でもあまり意識していない。 ③目標を立てていない。	①	—
	2	計画立案	目標達成に向けた経営計画を立て、それに従って営農活動を行っている。	①文書化した経営計画があり、これを基に、営農活動を行っている。 ②おおまかな計画はあるが、必ずしも計画を意識せず営農活動を行うこともある。 ③経営計画を立てていない。	②	○
	3	評価・改善	定期的に経営状況の確認・評価を行い、経営改善を図っている。	①毎年、経営計画の達成状況を確認・評価し、次期計画の改善に結び付けている。 ②経営判断をしたり、問題が発生しそうな時には、経営状況の確認・評価を行うようにしている。 ③経営状況の確認・評価を意識的に行ったことがない。	②	△
生産	4	農作業記録	毎日の農作業記録を書面で残し、作業の改善に役立てている。	①GAP等に基づき、生産工程を適切に管理し、作業改善に結び付けている。 ②主な農作業については、作業内容や作業時間等の記録を残すようにしている。 ③カレンダーに記入したり、メモを残しておく程度できちんとした農作業の記録は付けていない。	①	—
	5	資材調達	資材価格の比較・検討を行い、調達先を決めている。	①複数の調達先を比較・検討し、価格・サービス等を総合的に判断して調達先を決めている。 ②他の調達先についても調べているが、調達先を変更したことはない。 ③調達先について比較・検討をしたことがない。	②	△
	6	コスト管理	生産に係るコストを常に把握し、収益の増加を図っている。	①機械の償却費や支払金利等も含め、すべての生産コストを把握し、その低減に努めている。 ②資材費等の直接的な経費については、生産単位（10a、1頭など）当たりで把握できている。 ③生産に係るコストを自分で計算したことがない。	②	△
販売・加工	7	強み把握	他と比較して、自らの農産物の品質や特性の強みを把握している。	①市場のニーズや消費者の評価を把握し、強みを活かした販売戦略の構築や商品開発を行っている。 ②強みは把握しているが、販売戦略には十分には活かされていない。 ③強みが何かよく分からない。	②	○
	8	販路確保	複数の販路を比較・検討して販路を決定するなど、安定的な販売のための取組を行っている。	①複数の販売先を比較・検討し、総合的に判断して販路を決定している。 ②他の販売先についても検討したことがあるが、基本的には販路は固定している。 ③販路を変更しようと考えたことがない。	①	—
	9	付加価値	リスクへの備えをした上で、食品加工や直接販売等による付加価値の向上に取り組んでいる。	①付加価値の向上に取り組むとともに、食の安全や消費者の信頼に関わる取組を行い、リスクに対応している。 ②付加価値の向上に取り組んでいるが、食品事故等のリスクへの対応が十分とは言えない。 ③付加価値の向上に取り組んでいない。	③	×
財務	10	資金区分	経営のための資金と家計のための資金を明確に区分している。	①経営と家計の間の資金移動について、事業主報酬や給与の形で定額とするなど一定のルールを定めている。 ②経営と家計の資金を区分しているが、経営と家計の間の資金移動に特段ルールを設けていない。 ③経営と家計の資金を区分していない。	①	—
	11	財務諸表	財務諸表を整備し、適切な財務管理や税務申告を行っている。	①貸借対照表を作成し、適切な財務管理を行っている。 ②帳簿を付け、青色申告は行っているが、貸借対照表は作成していない。 ③青色申告に必要な帳簿をつけていない。	②	○
労務	12	労働環境	家族・従業員の意欲を高めるために、労働環境の改善に取り組んでいる。	①家族や従業員が意欲を持って従事できるよう、労働環境の改善に積極的に取り組んでいる。 ②農作業安全への配慮など、一定の労働環境の改善には取り組んでいる。 ③労働環境の改善について、あまり関心をもっていない。	①	—
	13	福利厚生	家族や従業員を含め、必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。	①家族や従業員等すべてが必要な社会保険や労働保険、公的年金等に加入している。 ②必要な保険・年金に経営主は加入しているが、家族や従業員は加入していないものがある。 ③必要な保険・年金のうち、経営主が加入していないものがある。	③	○
地域活動	14	地域活動	地域農業の発展に資する活動を行っている。	①地域農業に関する活動で中心的な役割を担っている。 ②関係者とともに地域農業に関する活動に参加している。 ③地域農業に関する話合いには最低限参加しているが、具体的な活動は行っていない。	①	—

※改善の優先度　　○：早急（1年以内）に改善すべきもの　△：2～3年以内に改善すべきもの　×：当面取り組む考えのないもの　－：すでに優れた取組が行われているもの

経営データの記入フォーム

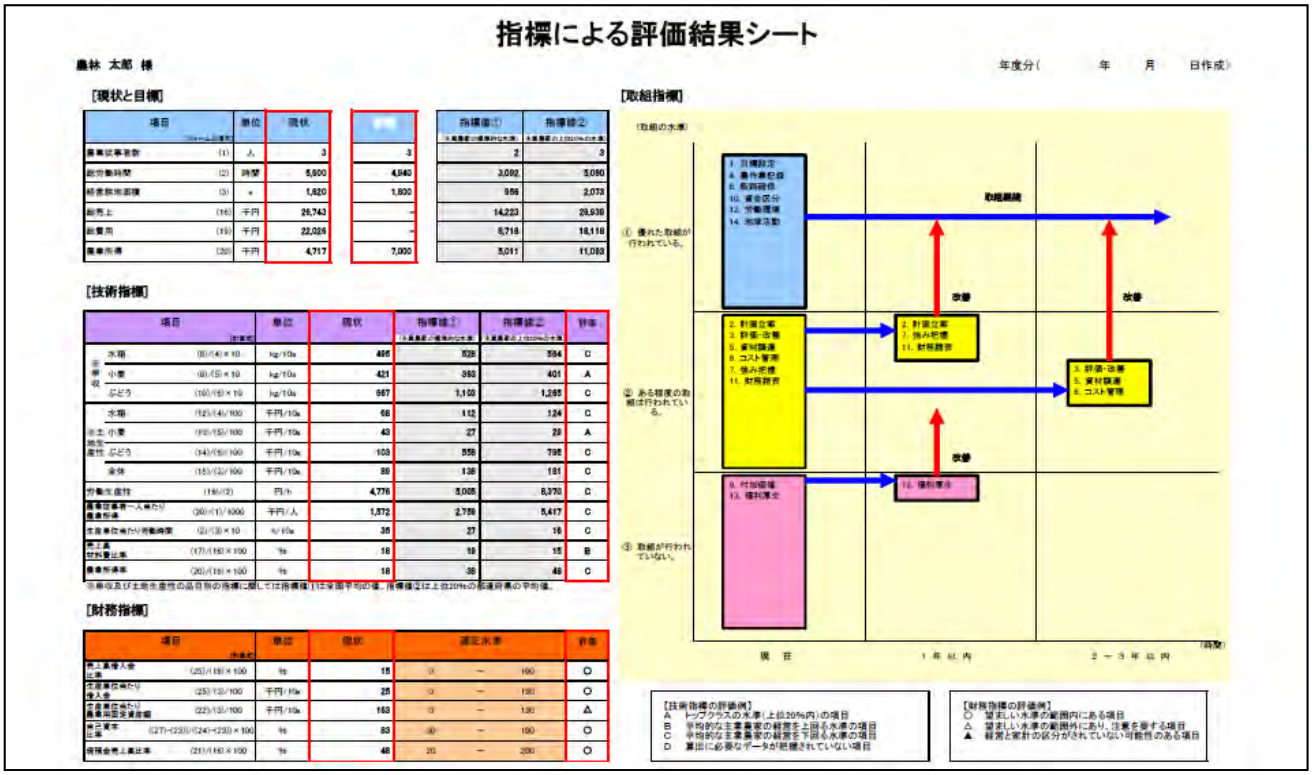
農林 太郎 様　　年度分（　　年　　月　　日作成）

［労働力］

［農地］

［生産・販売］

［財務］



6.1　現状と目標

経営の基本データの現状と目標の値が自動で計算されています。また、基本情報で選択した営農類型別に、指標値が表示されます。それぞれの項目について、「指標値①」は主業農家の標準的な水準（中央値）を、「指標値②」はトップクラスの主業農家の水準（上記 20%値）を示しています。これらの指標値を参照しながら、自らの現状を認識するとともに、目標達成のために何が必要かを確認してください。

なお、プログラムでは総売上及び総費用の目標は表示されませんが、農業所得の目標を設定するに当たって、総売上及び総費用についても目標を検討・設定してください。

農林 太郎 様

[現状と目標]　戻る　保存

項目 [フォームの項目]		単位	現状	目標	指標値①（主業農家の標準的な水準）	指標値②（主業農家の上位20%の水準）
農業従事者数	(1)	人	3	3	2	3
総労働時間	(2)	時間	5,600	5,040	3,092	5,080
経営耕地面積	(3)	a	1,620	1,800	956	2,073
総売上	(16)	千円	26,743	–	14,223	29,939
総費用	(19)	千円	22,056	–	8,718	18,118
農業所得	(20)	千円	4,687	7,000	5,011	11,093

たとえば、上図の例では、経営耕地面積や総売上は標準的な水準を超えていますが、総費用がかさみ、農業所得は標準的な水準に達していないことがわかります。

6.2　技術指標

技術水準を表す各種指標の値が自動で計算されています。

それぞれの項目について、「指標値①」は主業農家の標準的な水準（中央値）を、「指標値②」はトップクラスの主業農家の水準（上記 20%値）を示しています。ただし、単収および土地生産性の品目別の指標値に関しては、「指標値①」は全国平均の水準を、「指標値②」はトップクラスの産地の水準（上記 20%平均）を示しています。各技術指標の項目の内容は以下のとおりです。

技術指標の項目	内容
単収	一定の生産単位（10a、1 頭など）当たりの生産量を表す指標。値が大きいほど、決められた面積や頭数で多くの生産量を実現する技術水準が高いことを示す。
土地生産性（畜産生産性）	一定の生産単位（10a、1 頭など）当たりの売上高を表す指標。値が大きいほど、決められた面積や頭数で多くの売上高を実現する技術水準が高いことを示す。
労働生産性	1 時間当たりの売上高を表す指標。値が大きいほど、決められた労働時間で多くの売上高を実現する技術水準が高いことを示す。
農業従事者 1 人当たり農業所得	農業従事者 1 人当たりの農業所得を表す指標。値が大きいほど、少ない農業従事者で多くの農業所得を実現する技術水準が高いことを示す。
生産単位当たり労働時間	一定の生産単位（10a、1 頭など）当たりの労働時間を表す指標。値が小さいほど、決められた面積や頭数を少ない労働時間で管理する技術水準が高いことを示す。
売上高材料費比率	売上高に占める材料費の比率を表す指標。値が小さいほど、少ない材料費で多くの売上高を実現する技術水準が高いことを示す。
農業所得率	売上高に占める農業所得の比率を表す指標。値が大きいほど、売上高の多くを農業所得とする技術水準が高いことを示す。

[技術指標]

項目		[計算式]	単位	現状	指標値①（主業農家の標準的な水準）	指標値②（主業農家の上位20%の水準）	評価
※単収	水稲	(8)/(4)×10	kg/10a	495	528	564	C
	小麦	(9)/(5)×10	kg/10a	421	393	401	A
	ぶどう	(10)/(6)×10	kg/10a	667	1,103	1,265	C
※土地生産性	水稲	(12)/(4)/100	千円/10a	68	112	124	C
	小麦	(13)/(5)/100	千円/10a	43	27	29	A
	ぶどう	(14)/(6)/100	千円/10a	103	558	795	C
	全体	(15)/(3)/100	千円/10a	89	138	181	C
労働生産性		(16)/(2)	円/h	4,776	5,005	8,370	C
農業従事者一人当たり農業所得		(20)/(1)/1000	千円/人	1,572	2,759	5,417	C
生産単位当たり労働時間		(2)/(3)×10	h/10a	35	27	16	C
売上高材料費比率		(17)/(16)×100	%	18	19	15	B
農業所得率		(20)/(16)×100	%	18	38	48	C

※単収及び土地生産性の品目別の指標に関しては指標値①は全国平均の値、指標値②は上位20%の都道府県の平均値。

たとえば、上図の例では、①水稲やぶどうの単収、土地生産性が低い、②生産単位当たりの労働時間が大きいなどのことがわかります。これらのことから、水稲やぶどうの技術力向上に努める必要がある、省力化を進める余地があるなどのことが示唆されます。

6.3　財務指標

財務状況を表す各種指標の値が自動で計算されています。

それぞれの項目について、「望ましい水準」の範囲が示されており、この範囲外の場合には、特に注意が必要と考えられます。ただし、財務状況の評価を単一の指標だけで行うことは困難であり、たとえ範囲内であっても注意が必要なケースがあり得ますので、留意してください。各財務指標の項目の内容は以下のとおりです。

財務指標の項目	内容
売上高借入金比率	売上高に占める借入金の比率を表す指標。値が大きいほど、売上高から見た借入金の負担が大きくなり、経営が不安定になる可能性が高くなる。
生産単位当たり借入金	一定の生産単位（10a、1 頭など）当たりの借入金の割合を表す指標。値が大きいほど、単位当たりの面積や頭数から見た借入金の負担が大きくなり、経営が不安定になる可能性が高くなる。
生産単位当たり農業用固定資産額	一定の生産単位（10a、1 頭など）当たりの農業用固定資産額の割合を表す指標。値が大きいほど、単位当たり面積や頭数から見た施設や機械等の固定資産の価値が高くなり、過剰投資となっている可能性が高くなる。
自己資本比率	総資本に占める自己資本の割合を表す指標。値が小さいほど、自己資本による部分が小さくなり、経営が不安定になる可能性が高くなる。
売上高現預金比率	売上高に占める現預金の割合を表す指標。この比率が小さくなるほど、売上高から見た現預金の割合が少なくなり、経営が不安定になる可能性が高くなる。一方、この比率が大きすぎる場合には、経営と家計が区分されておらず、家計の現預金が経営向けとして計上されている可能性がある。

[財務指標]

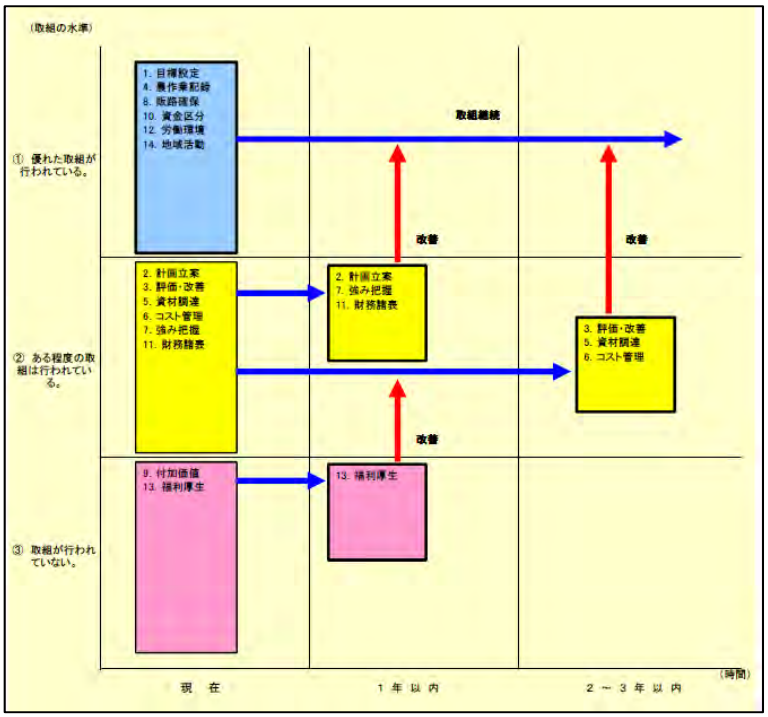
項目 [計算式]		単位	現状	適正水準			評価
売上金借入金比率	(25)/(16)×100	%	15	0	～	100	○
生産単位当たり借入金	(25)/(3)/100	千円/10a	25	0	～	130	○
生産単位当たり農業用固定資産額	(22)/(3)/100	千円/10a	163	0	～	130	△
自己資本比率	((27)-(23))/((24)-(23))×100	%	83	30	～	100	○
現預金売上高比率	(21)/(16)×100	%	48	20	～	200	○

たとえば、上図の例では、生産単位当たり農業用固定資産額が適正水準よりも大きく、過剰投資となっている可能性が示唆されます。

6.4　取組指標

経営改善のためのチェックリストで選択した、各取組指標に対する取組状況及び改善の優先度が図示化され、表示されています。

いつ、何の取組を改善していくのか改めて確認し、それらの取組を着実に実施するようにしてください。



6.5　経営計画の見直し

指標による評価結果シートに記載されたそれぞれの指標を総合的に評価して、今後、どのように経営の改善・発展を図っていくかを検討し、今後の経営計画に反映させてください。

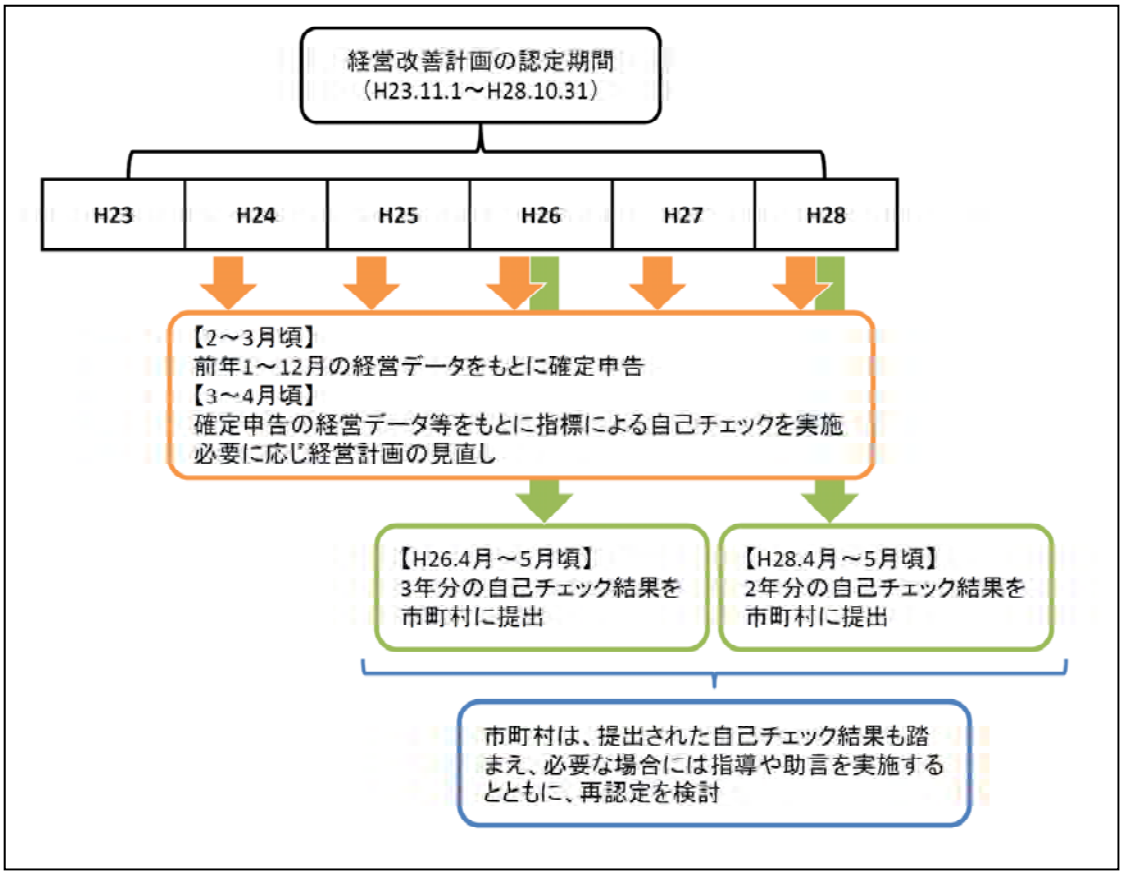
特に、認定農業者においては、明らかになった課題を改善し、経営改善計画の最終年には、計画に記載された目標が達成されるよう努めてください。

6.6　自己チェック結果の市町村への提出（認定農業者のみ）

認定農業者の方は、農業経営改善計画に沿って経営改善を着実に進めるため、毎年定期的に農業経営指標に基づく自己チェックを行ってください。

自己チェックの結果は大切に保管し、認定期間の中間年（３年目）に１年目から３年目までの３年分、最終年（５年目）に４年目及び５年目の２年分を、認定を受けている市町村に提出してください。（具体的な提出内容・時期は、市町村に相談してください。）

《提出の流れのイメージ》



新たな農業経営指標のお問い合わせ先

北海道農政事務所経営・事業支援課	011-642-5479（直通）
東北農政局経営･事業支援部担い手育成課	022-263-1111（内線 4113）
〔青森県　岩手県　宮城県　秋田県　山形県　福島県〕	
関東農政局経営･事業支援部担い手育成課	048-600-0600(内線 3810)
〔茨城県　栃木県　群馬県　埼玉県　千葉県　東京都　神奈川県　山梨県　長野県 静岡県〕	
北陸農政局経営･事業支援部担い手育成課	076-263-2161(内線 3915)
〔新潟県　富山県　石川県　福井県〕	
東海農政局経営･事業支援部担い手育成課	052-201-7271(内線 2444)
〔岐阜県　愛知県　三重県〕	
近畿農政局経営･事業支援部担い手育成課	075-451-9161(内線 2727)
〔滋賀県　京都府　大阪府　兵庫県　奈良県　和歌山県〕	
中国四国農政局経営･事業支援部担い手育成課	086-224-4511(内線 2184)
〔鳥取県　島根県　岡山県　広島県　山口県　徳島県　香川県　愛媛県　高知県〕	
九州農政局経営･事業支援部担い手育成課	096-211-9111(内線 4317,4318)
〔福岡県　佐賀県　長崎県　熊本県　大分県　宮崎県　鹿児島県〕	
内閣府沖縄総合事務局農林水産部経営課	098-866-0031（内線 83282）

農林水産省経営局経営政策課　03-6744-2143